

帝国書院の新しい教科書の情報が詰まった 中学校 社会科Webのご案内

中学校 社会科
Webも
ご覧ください



令和3年度版
内容解説資料

本資料は、
一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に
則っております。

中学校 社会科Webは
こちら



※左の二次元コードのほか、弊社ホームページならびに
下記URLからもご覧いただけます。

帝国書院

検索

<https://www.teikokushoin.co.jp/jhs2020/index.html>



社会科

中学生の 地理

世界の姿と日本の国土

地域の特色を捉え、 「持続可能な発展」を 考えられる教科書

令和3年度版 内容解説資料

部分サンプル

本資料は、環境にやさしい再生紙・植物油インキを使用しています。
また、カラーバリアフリーを含む、ユニバーサルデザインに配慮しています。
本書の無断転載・複製を禁じます。

帝国書院

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-29
TEL 03-3262-0831
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>

帝国書院



■p.27 インドネシアの市場（フロレス島，2018年9月撮影）



■p.205 観光客でにぎわう清水寺の山門（京都府，京都市，2016年5月撮影）

世界の地域理解から “異文化理解”が深まる

■p.27 アラビア半島のらくだ市（アラブ首長国連邦 西部，2018年9月撮影）



日本の地域理解から “国土理解”が深まる

■p.239 首都圏外郭放水路（埼玉県，春日部市，2015年撮影）



本資料のもくじ



■p.33 床に座って食事をする人々(オマーン北部, 2018年9月撮影)

「社会科 中学生の地理」に込めた想い

異文化理解・国土理解から“深い学び”につながる教科書めざして

帝国書院 編集部

私たちの暮らす地球には、自然条件や社会条件の異なるさまざまな地域があり、それぞれの地域に独自の文化が広がっています。地理的分野の学習では、まず、日本や世界中に広がるさまざまな文化にふれてほしいと私たちは考えました。

その上で、暑い地域や寒い地域、先進国や発展途上国など、世界中のさまざまな地域で暮らす人々が、それぞれに工夫や努力を重ね、いきいきと暮らしているようすを感得してもらいたいと思っています。さらに、それぞれの地域を、自然環境や文化、産業などさまざまな面から多面的にみることで、地域の特徴を理解してもらいたいとも思っています。

こうした地理的分野の学習を通して、中学生の皆さんが異文化理解・国土理解を深め、グローバル化する国際社会の中で生き、各地に見られる諸課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる人材に育ってほしいと願っています。

特色① 地域の姿が見える写真とイラスト地図 5

地域を概観できる導入写真	5
人々の営みを映し出す数々の写真	9
親しみやすいイラスト地図	11

特色② 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開 13

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」編	13
着実に深まる国土理解「日本の諸地域」編	19
世界と日本の諸地域学習の「序説」	27

特色③ 深い学びにつながる「問い」 29

見通し・振り返り学習がしやすい構造 ①節(章)の構造	29
見通し・振り返り学習がしやすい構造 ②見開きの構造	31
見通し・振り返り学習がしやすい構造 ③「学習を振り返ろう」	33

特色④ 「地理的な見方・考え方」を育む資料 35

見方・考え方が働く図版や本文	35
充実した地理的技能の作業	39

特色⑤ SDGsの実現に向けたさまざまな資料 41

具体的な地域事例を多数掲載	41
防災・環境・共生への意識が高まる工夫	43

共通の特色／サポート／特色一覧

社会科3分野 共通の特色	①3分野の関連を図った10のポイント	45
	②二次元コード コンテンツ	47
	③特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮	49
教科書指導の サポート	①デジタル教科書・教材	51
	②教師用指導書・指導者専用サイト・定期刊行冊子など	53
『社会科 中学生の 地理』の特色一覧	①教育基本法との対応	55
	②検討の観点から見た内容の特色	57
	『社会科 中学生の地理』の全体構成(もくじ)	61
	著作者を代表して／本書の著作関係者	62

※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

地域の姿が見える写真とイラスト地図

地域を概観できる導入写真

「世界の諸地域」編

▼ p.108-109



写真で眺める
南アメリカ州



カーニバルって、
ヨーロッパの学習で
も出てきたよね。
どんな祭りだったけ？

↑1 リオデジャネイロの
カーニバル(ブラジル、
2018年2月撮影)

➔ p.112



→ **2** インティ・ライミ
(太陽神の祭り) で民族衣装えうしやうを着た子どもたち(ペルー, クスコ, 2017年6月撮影) インカ帝国時代ていこくに起源きげんをもつ祭りで、パレードなどが行われます。 ➡ p.112



写真**1**～**7**の位置を、
地図上で確認しよう。



←3 世界最大規模
 のスタジアムで
 サッカー観戦を楽
 しむ人々(ブラジル、
 リオデジャネイロ)
 このスタジアムは、
 ワールドカップやオ
 リンピックの会場に
 もなりました。

➔ p.115

第2部第2章「世界の諸地域」と第3部第3章「日本の諸地域」では、地域の姿を実感できるように、導入写真ページを掲載しています。これから学習する地域の特色を視覚的に概観できます。

原寸大



📍 **4 ギアナ高地のアンヘル滝** (ベネズエラ, 10月撮影) ギアナ高地には、山頂がテーブル状に平らな山がたくさんあります。アンヘル滝は、世界最大の979mの落差があることで知られています。 ➡ p.110



↑5 バナナの選別工場
 (エクアドル) 多国籍企
 業がプランテーションで
 バナナを大規模に栽培
 し、世界に輸出していま
 す。 ➡ p.114

➔ p.114



バナナの^{だん}段ボール
にあるマーク，店
で見たことがある
よ！

📌 6休日に草原でバーベキューを楽しむ人々（アルゼンチン、ブエノスアイレス近郊、2016年6月撮影） アルゼンチンの人々は、肉の消費量が多いことで知られています。 ➡ p.111, 114


大規模な大豆畑での収穫作業（ブラジル、マツグロソ州、3月撮影）
 かつては未開の地だった地域が、大規模な農地に開発されています。
 
 p.114



特色

1

地域の姿が見える写真とイラスト地図

地域を概観できる導入写真

「日本の諸地域」編

p.204-205

写真で眺める
近畿地方

琵琶湖の水は、
どんなことに
利用されている
のかな？

1面積が日本一の湖、琵琶湖(滋賀県) 琵琶湖の水は、瀬田川、宇治川、淀川と流れ、大阪湾へと注ぎます。 p.206, 208



2真珠の養殖(三重県、志摩市) リアス海岸が続く志摩半島では、真珠やのりの養殖が盛んです。 p.206, 215

3神戸港と埋立地につくられた観光施設(兵庫県、神戸市、2017年撮影) 明治時代以降、神戸は外国文化の玄関口として栄えてきました。 p.206, 208



！ポイント

写真は右に示した観点で選定しています。

1 新鮮な驚きを生み出す写真

2 特色ある自然や産業などを捉えた写真

3 有名な観光地の写真

→ 地域の姿が、見えてきます。

原寸大

4観光客でにぎわう清水寺の山門(京都市、京都市、2016年5月撮影) 日本人・外国人を問わず、日本の伝統文化の一つである着物を着て、観光名所をめぐる観光客が増えています。 p.212

旅行で京都に行ったら、行きたい場所はどこかな？



5鹿と出会う奈良の町(奈良県、奈良市、2018年撮影) 写真は大仏で有名な東大寺の参道です。東大寺は、この地に平城京がおかれた奈良時代に建てられました。 p.206, 212

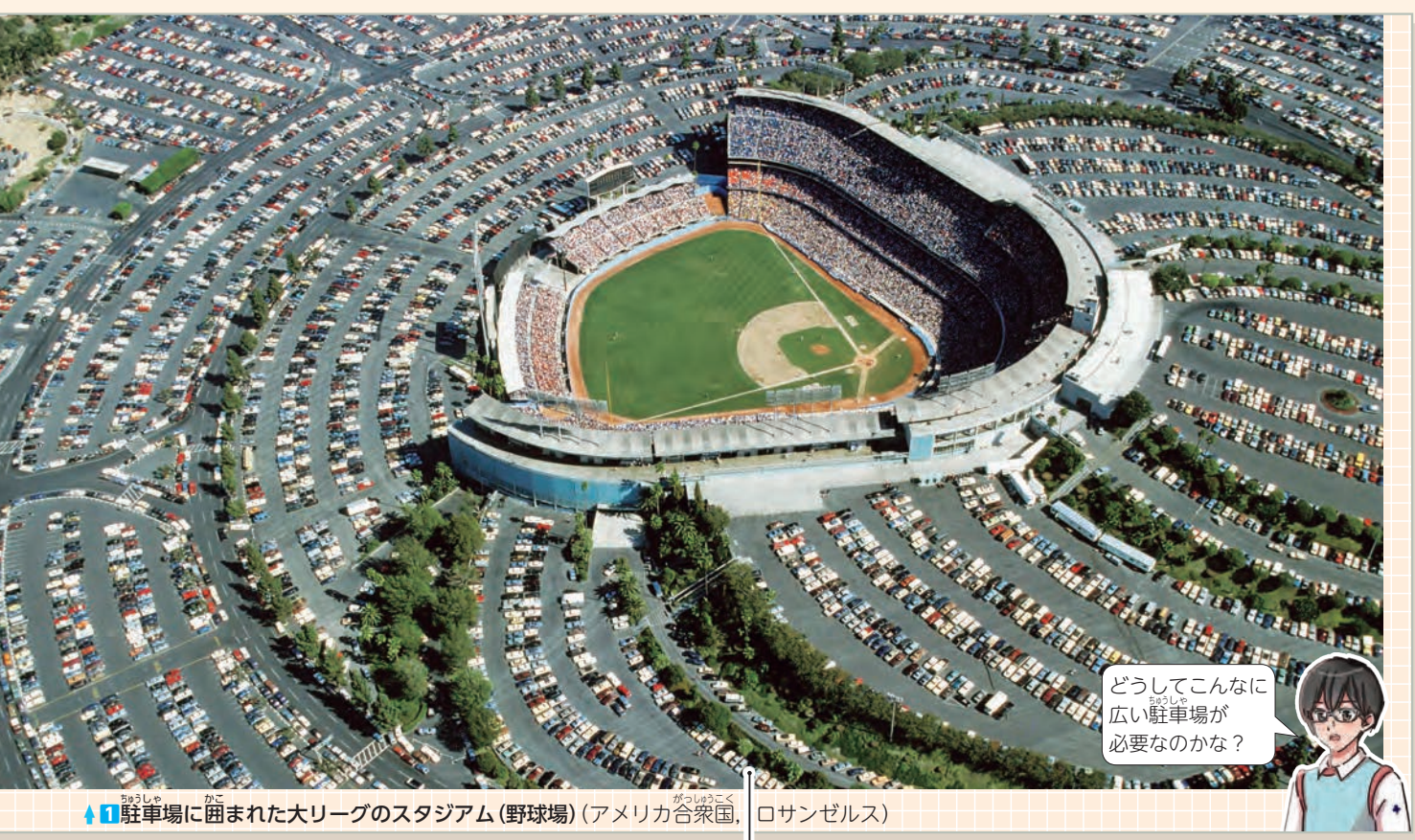
探してみよう！
写真1～6の位置を、地図上で確認しよう。

6大阪名物の食べ物を売る店が立ち並ぶ通天閣周辺の繁華街(大阪府、大阪市) 商業が発展している大阪は、「食いだおれ」の町としても知られています。 p.206, 209



地域の姿が見える写真とイラスト地図

人々の営みを映し出す数々の写真



1 駐車場に囲まれた大リーグのスタジアム(野球場) (アメリカ合衆国, ロサンゼルス)

p.104

例えば、上のスタジアムの写真からは“野球場のまわりにこんなに大きな駐車場が建設されるアメリカ合衆国とは、どのような国 (=場所) なんだろう”という見方・考え方を働かせることにつながります。



雨季(7月) 雨季と乾季のトンレサップ湖の様子(カンボジア, 左, 2015年撮影, 右, 2016年撮影)
資料活用 同じ場所を写した2枚の写真を見比べて、雨季と乾季で異なる姿を挙げよう。

p.51

同じ地点の違う時期の写真を掲載し、興味・関心を喚起させるようにしています。さらに、地理的な見方も自然に働きます。

積極的に現地取材を行い、地域の特色を的確に捉えた写真を用意しています。
厳選された写真資料は、生徒の興味・関心を喚起し、地理的な「見方・考え方」を働かせることができます。(この見開きの写真は、すべて原寸となっています。)



帝国書院撮影
p.177 観察デッキから縄文杉を眺める観光客 (鹿児島県, 屋久島町, 2018年8月撮影)

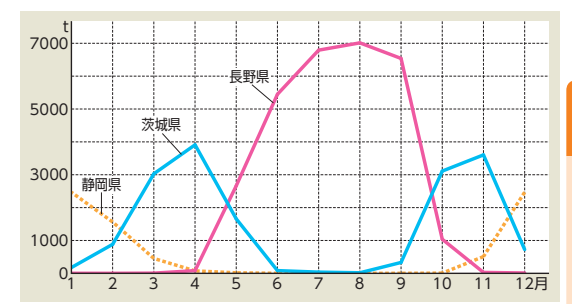


帝国書院撮影
p.265 南部鉄器の製造風景(岩手県, 盛岡市)

例えば、下の写真からは“なぜ、こんなに朝早くから収穫しているのだろう?”という疑問を喚起させ、この地域と都市部の関係 (空間的相互依存作用) を働かせることができます。



帝国書院撮影
4 レタスの収穫の様子(長野県, 川上村, 2018年8月撮影) 収穫は午前2時ごろから午前8時ごろまで行われます。資料活用 夜明け前から収穫する理由を考えよう。



5 東京へ出荷されるレタスの量(2016年) (東京都中央卸売市場資料) 資料活用 長野県でレタス栽培が盛んな時期に注目しよう。

p.229

「見方・考え方」の詳しい説明は
本資料p.35-38に掲載

特色

1

地域の姿が見える写真とイラスト地図

親しみやすいイラスト地図

原寸大

探してみよう!

イラストの中には、小学校で学習したものも含まれています。あなたが知っているイラストを見つけよう。

近畿地方

小学校の学習を振り返る「問い」を糸口に中学校の学習に結び付けています。

p.203



日本の各地方の冒頭に、地方を概観できるイラスト地図を掲載しています。

p.171

都道府県を代表する観光地や祭り、食べ物などのイラストを掲載しています。

原寸大

九州地方



探してみよう!

イラストの中には、小学校で学習したものも含まれています。あなたが知っているイラストを見つけよう。

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開
着実に深まる異文化理解 「世界の諸地域」編

「世界の諸地域」編

【導入】写真で眺める南アメリカ州

原寸大 本資料 p.5-6

▶各州の特色となる自然環境、歴史・文化、産業などに関する、地域の姿が見える写真を大きく掲載し、**地域的特色を概観**できるようにしています。

南アメリカ州の自然環境 (各州の自然環境)

▶異文化理解を深める上で基礎・基本となる各州の地形や気候などの**自然環境を、人々の生活と関連付けながら**、端的に捉えています。

【例】第2部第2章第5節「南アメリカ州」(p.108～119)



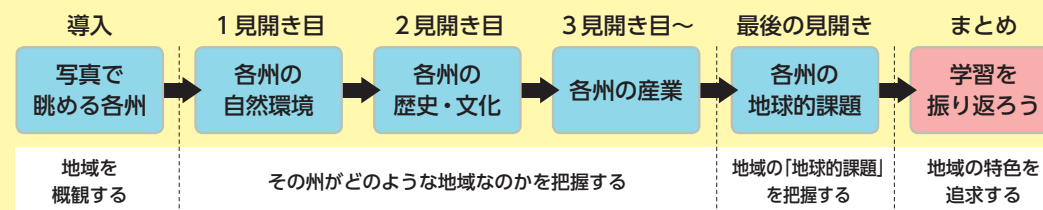
▲ p.108-109

「写真で眺める」ページの写真は、地域を概観するだけでなく、本文ページの資料としても活用できます。

はな
華やかさで世界中に知られるリオデジャネ
イロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカ
の文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはも

！ポイント

世界の諸地域の展開

異文化理解が
深まる

世界と日本の諸地域の単元では、「自然環境」のページに地形がわかる地図と、雨温図を掲載しているため、地域の自然環境の概要がつかめます。

アンデス山脈が気候に及ぼす影響と、熱帯から寒帯まである南アメリカ州の多様な気候の特色を、人々の生活と関連付けながらつかむことができます。

地図中には、見開きページ内で使用されている写真の位置が示されています。写真が撮影された場所を確認できます。



▣ p.110 1の拡大

特色

2

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解

「世界の諸地域」編

2見開き目では、各州の歴史・文化を扱うことで、地域によって、なぜ異なる暮らしびりが存在するのかを理解することができます。3見開き目以降は、各州の産業や結び付きなど、その地域で特色となる事象を扱っています。

多様な民族・文化と人々の生活 (各州の歴史・文化)

▶日本とは大きく異なる世界各州の人々の暮らしや文化の特色を、**歴史的な経緯もふまえて**理解できます。

大規模化する農業と成長する工業 (各州の産業)

▶地域の**特色ある産業**などを扱っています。見開きごとに学習内容がまとまっているため、**地域的特色を捉えやすく、スムーズに学習**できます。



2 多様な民族・文化と人々の生活

南アメリカの国々の文化や民族には、どのような特色がみられるか。

南アメリカの成り立ち

もともと南アメリカには、アンデス山脈のインカ帝国に代表されるように、**先住民**がつくった高度な文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして**植民地**をつくり、**ヨーロッパの文化を南アメリカにも**あてました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、**キリスト教のカトリックが信仰**されています。

植民地時代には大きな農場や鉱山で、先住民やアフリカから連れてこられた**奴隷**が厳しい環境で働かされました。先住民と白人との間には子どもが生まれ、メスチーソとよばれる混血の住民も増えました。19世紀の終わりにはイタリアやドイツをはじめとするヨーロッパから、20世紀になると日本からも、多くの移民がやって来るようになりました。その結果、現在の南アメリカには、先住民のほか、ヨーロッパやアフリカ、アジアなどからやって来た、さまざまな人種や民族が共存して暮らしています。

融合から生まれたさまざまな文化

単やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。**カーニバルはもと**もと、**ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事**ですが、

p.112-113

カーニバルなどの独特な文化が南アメリカ州に存在するのはなぜか、その歴史的背景を学ぶことにより、地域への理解が深まります。

明を滅ぼして**植民地**をつくり、**ヨーロッパの文化を南アメリカにも**あてました。そのため、**現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、キリスト教のカトリックが信仰**されています。

の文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。**カーニバルはもと**もと、**ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事**ですが、

2 世界の諸地域 南アメリカ州

共生 ブラジルに渡った日本人

ブラジルには約190万人の日系人が暮らしているといわれます。日本からブラジルへの移住は1908年に始まりました。移住者は当初、コーヒー農園に住み込んで働きましたが、労働環境が厳しく、逃げ出してしまいう人もいました。その後、自分の土地を所有して、野菜・果物の栽培や鶏の飼育を始めると、都市へ移り住んで飲食店などを始める人が出てきました。日本人移民は子どもの教育を大切にしたり、その子孫の日系人は大学への進学率が高く、高度な技術職で働いたり、医者や弁護士になったりするなど、さまざまな分野で活躍しています。1990年以降は、日本で法律が改正されたことにより、ブラジルなど南アメリカの国々から日本に来て働く日系人が多くみられます。

サンパウロの日本人街(ブラジル、2016年撮影) 和食の飲食店などが集まっています。

タンゴを踊る人(アルゼンチン、ブエノスアイレス)

アマゾン川流域の先住民と畑でとれたキャッサバ(ブラジル北部)

焼畑農業

森林の伐採と火入れ

木や草の成長

10～50年で1サイクル

作物の栽培

作物の成長

作物の収穫

南アメリカ州の国々で使用されている主要な言語を図で確認し、二つ挙げよう。

南アメリカ州で独自の文化や多様な民族がみられる背景を、「植民地」の図句を使って説明しよう。

p.112-113

文章だけでは理解しにくい用語は、イラストや表による図解を交えて解説することで、着実に理解ができるようになっていきます。

森林の伐採と火入れ

木や草の成長

10～50年で1サイクル

作物の栽培

作物の成長

作物の収穫

p.113「解説」中の焼畑農業の模式図

3 大規模化する農業と成長する工業

大型機械を使ったコーヒーの収穫(ブラジル、サンパウロ州、2010年6月撮影)

コーヒーの収穫作業は、近年と以前とは、どんな風に変わったのかな？

手作業でのコーヒー(ブラジル、パレンス、2010年6月撮影) 収穫者の人数を比べてみよう。

大農園での農業

南アメリカ州の国々で、産業に変化がみられるようになったのはなぜだろうか。

南アメリカ州では、平野や高原を中心に大規模な農業がみられます。スペインやポルトガルの植民地時代に、各地に大農園がひらかれ、ブラジルではさとうきびやコーヒーの栽培が、アルゼンチンのパンパでは小麦の栽培や肉牛の放牧が盛んに行われてきました。また、エクアドルやコロンビアなどの熱帯の海岸地域では、多国籍企業が経営する**プランテーション**で、輸出用のバナナの栽培が大規模に行われています。

ブラジルは長い間、コーヒー豆の輸出に依存した**モノカルチャー経済**の国でしたが、近年では、コーヒー豆のほか、大豆やさとうきび、鶏肉・牛肉などの生産も増えています。特に大豆は、土壌や種の改良が進んだ結果、かつては農業に不向きとされていた土地でも大規模に栽培できるようになりました。ブラジルとアルゼンチンの主要な輸出品となった大豆は、アメリカ合衆国などの**アグリビジネス**を行う企業に大量に買い付けられ、大豆油や飼料にするために、主に中国などへ輸出されています。さとうきびは、砂糖だけでなく、ブラジルで普及している**バイオ燃料**の原料としても使われます。

p.114-115

導入では、ブラジルにおけるコーヒーの収穫方法の**変化を写真資料で提示**することで、**地域における産業の発展について考察**することができます。

本資料 p.23

2 世界の諸地域 南アメリカ州

南アメリカの植生と農業 (Diercke Weltatlas 2008)

南アメリカの国々の輸出品 (2015年) (UN Comtrade)

豊かな資源と工業化

南アメリカは**鉱産資源**に恵まれており、ブラジルの鉄鉱石、チリの銅、ペネズエラやエクアドルの原油などは、輸出品として各国の経済を支えてきました。鉱産資源の輸送のために、鉄道、電力、通信などの施設が整備され、後に工業にも利用されるようになりました。

ブラジルやアルゼンチンは、1960年代後半からアメリカ合衆国や日本などの外国企業を受け入れることで、鉄鋼や自動車などの重化学工業を成長させました。特にブラジルでは、航空機の輸出や、大規模な海底油田の探掘も行われるようになり、急速に経済が発展しました。一方、アンデス山脈周辺の国々では工業化はあまり進んでおらず、鉱産資源や農産物の輸出に頼った経済が続いています。

産業の発展に伴う課題

ブラジルでは、産業の発展によって都市化が進み、人々の生活水準も高くなりました。その一方で、内陸部の農村と経済的な格差も広がりました。例えば農村では、農業の機械化が進み、農作業の手間が省けるようになった結果、職を失って都市へ移動せざるをえない人もいました。都市では、働く機会を求めて多くの人が集まり、急激に人口が増えたことにより、丘陵や河川敷などに**スラム**が形成されました。スラムでは、犯罪の発生やごみの増加など、劣悪な居住環境が問題となっているため、経済的な格差を無くするための取り組みが求められています。

p.114-115

南アメリカ州では、アマゾンの開拓による**農業の発展**→**豊かな資源を背景に発展した工業**→**発展に伴う課題**、と展開しているため、**順を追って産業の発展とそれに伴う課題について考える**ことができます。

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開
着実に深まる異文化理解 「世界の諸地域」編

「世界の諸地域」編

ブラジルにみる開発と環境保全(各州で注目する地球的課題)

▶熱帯林の破壊や都市・居住問題、食料問題など、世界各地で発生している**地球的課題**について、各州の**具体例をもとに学習**できます。

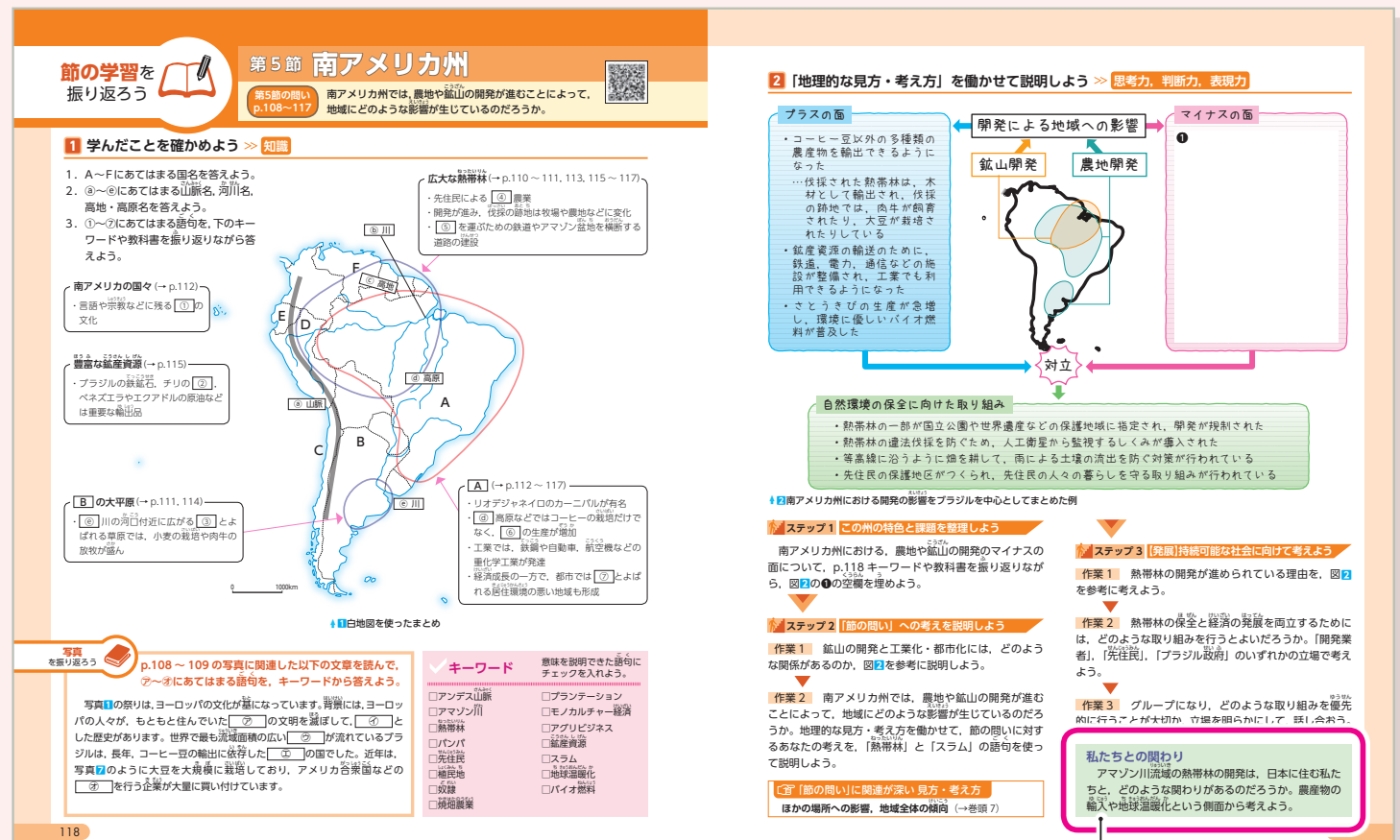
節の学習を振り返ろう

▶ **左ページ**では既習の**知識**を確認し、**右ページ**では「**見方・考え方**」を働かせて、各州がどのような**地域**だったのかを**思考・判断**し、**説明**します。

異文化理解が 深まる



▶ p.116-117



▲ p.118-119

南アメリカ州では、環境問題への対策自体が新たな課題を生み出しているという最新の状況を記述することで、地域への理解が深まり、多面的な考察も促進されます。

環境保全をめぐる
新たな課題

ブラジルでは、さとうきびを原料とする
バイオ燃料で走る自動車^③が普及しており、二
酸化炭素の排出量を抑える取り組みとして注目されています。燃料

サンパウロ州などの南東部で急増しています。しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が削られてしまうなどの環境問題が起きます。

「学習を振り返ろう」の最後では、地域的特色をまとめた上で、それらの課題を通して持続可能な社会に向けた構想を、自分たちの生活と関連付けながら話し合えるようにしています。

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は
本資料p.33-34に掲載

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解

【日本の諸地域】編

【導入】近畿地方(イラスト地図)

▶ 地方を概観するイラスト地図を掲載しています。小学校からの橋渡しになるよう、手書きによる親しみやすい表現にしています。

【例】第3部第3章第3節「近畿地方」(p.203～218)



p.203

原寸大 本資料 p.11

イラスト地図にすることで、大まかな地形の様子がわかりやすく捉えられます。

特徴的な産業や文化などのイラストを掲載することで、地域を概観できるようにしています。



【導入】写真で眺める近畿地方

▶ イラスト地図のあとに、地域の姿が見える写真を大きく掲載し、よりイメージをともなって地域の特色が概観できます。



p.204-205

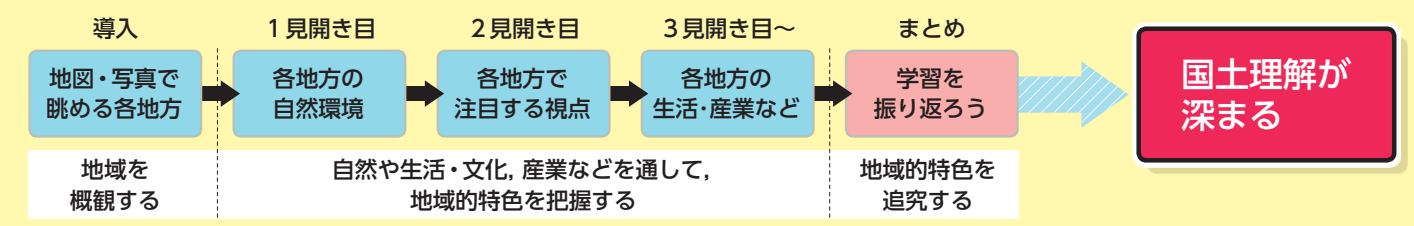
原寸大 本資料 p.7-8



各地方で「注目する視点」(→本資料p.28)に関わる写真を大きく掲載しています。地方の学習の始めに、「注目する視点」を印象付けられます。近畿地方では、「環境保全」を視点として取り上げているため、琵琶湖の写真を掲載しています。

！ポイント

日本の諸地域の展開



地域の特色を着実に理解できる地誌の展開
着実に深まる国土理解 「日本の諸地域」編

「日本の諸地域」 編

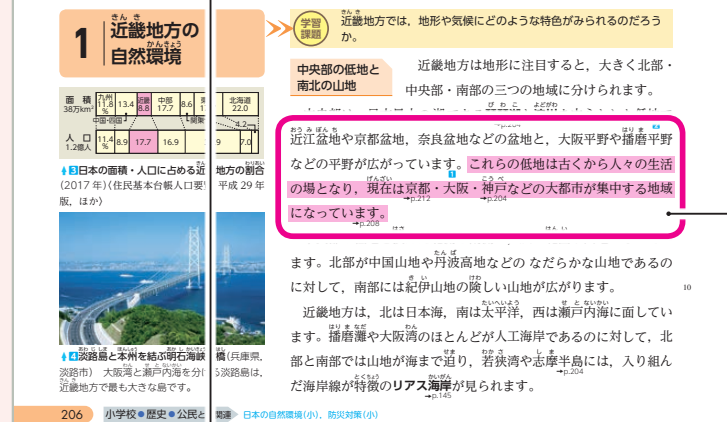
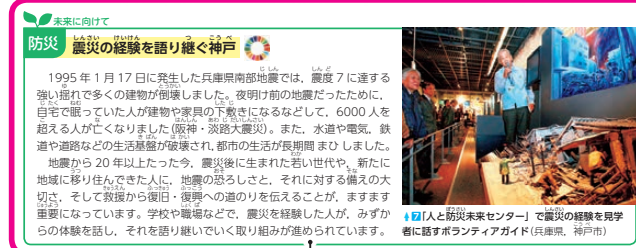
近畿地方の自然環境(各地方の自然環境)

▶ 自然環境を人々の生活と関連付けながら、わかりやすく記述しています。

1 見開き目では、国土理解を確かなものにする上で基礎・基本となる地形や気候などの自然環境を扱っています。また、2 見開き目では、各地方で注目する視点と関係の深い地理現象を扱うことで、各地方で追究する主題を明確にしています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏(各地方で注目する視点➡環境保全)

▶京阪神で暮らす人々の大切な水がめである琵琶湖の水質保全のために、地域の人々がどのような努力を行ってきたのかを扱いました。



▲ p.206-207

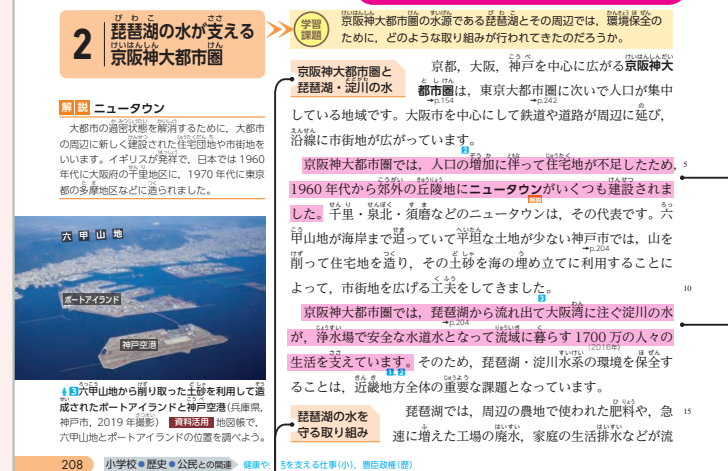
冒頭に「注目する視点」を提示しています。各地方の学習を、何に注目して「見通す」のかがわかります。

各地方の自然環境の特色に応じた災害と、防災への取り組みを扱っています。

本資料 p.44

自然環境を人々の生活と関連付けて記述にしています。

近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの低地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。



▲ p.208-209

「京阪神大都市圏」の概要をおさえた上で琵琶湖水系について考える展開としています。巨大な人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全の重要性が近畿地方の大きな課題の一つであることが自然に展開できます。



本文に書かれている人々の生活と琵琶湖の関係を、図版の読み取りを通じて深めることができます。

京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地にニュータウンがいくつも建設されました。千里・泉北・須磨などのニュータウンは、その代表です。

京阪神大都市圏では、琵琶湖から流れ出て大阪湾に注ぐ淀川の水が、浄水場で安全な水道水となって流域に暮らす1700万人の人々の生活をえています。そのため、琵琶湖・淀川水系の環境を保全す

特色

2

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解

「日本の諸地域」編

阪神工業地帯と環境問題への取り組み(工業+環境保全)

▶日本の工業地域の中でも古くから発展した阪神工業地帯が、発展の過程で経験した公害などの課題と、その克服の経緯を記述しています。

古都京都・奈良と歴史的景観の保全(観光業+環境保全)

▶古い歴史のある京都・奈良では、歴史的な景観を保全することで観光業が発展した経緯を扱い、環境(景観)保全が地域の発展に結び付くことを記述しています。

1

大阪湾の工業地帯の移り変わり(兵庫県、尼崎市)3枚とも、ほぼ同じ場所を撮影しています。**産業遺産** 建物の様子や周辺の環境に着目しながら三つの写真を比較し、異なる点を挙げてみよう。

1964年 2019年

火力発電所 阪神高速道路 物流基地 物流施設建設中

テレビの薄型パネルの生産工場

3

阪神工業地帯と環境問題への取り組み

1983年 1983年度 環境 29.4% 自然 21.7% 文化 15.5% 経済 17.1% 社会 10.3% 政治 1.0% 教育 1.0%

2016年 2016年度 環境 36.2% 自然 21.9% 文化 21.9% 経済 20.0% 社会 14.4% 政治 1.4% 教育 1.4%

※大阪府と兵庫県を合計する。

④阪神工業地帯の工業出荷額(平成29年工業統計表、ほか)

2016年 2016年度 地下 1.5% 地上 2.9% 地下 2.9% 地上 2.9%

④大阪府の工業用水の水質(経済産業省資料) ④水質の変化を調べる。

210 小学校・歴史・公民との関連・公害の

2

地理 プラス オンリーワンの技術で世界と戦う町工場

大阪ではねじの生産が盛んで、多くの町工場がねじが作られてきましたが、アジア諸国で工業化が進むと、ねじの国際競争が激しくなりました。こうしたなか、独自の技術を開発することで、国際競争に立ち向かおうとする町工場が出てきました。東大阪市の従業員数約90名の町工場では、神社の鳥居に使われているくさびの原理を応用して、「絶対に緩まないねじ」を開発しました。世界で唯一の技術といえるこのねじは、東京スカイツリーや明石海峡大橋などの建造物、新幹線の車両など、安全性が重視とされるさまざまな場面で採用され、イギリスなど海外でも広く使われています。

④大阪工業地帯の主な工業と出荷額(平成24年工業統計表、ほか)

④大阪府で生産が盛んな工業製品(2016年)(平成29年工業統計表)

④絶対に緩まないねじ」を製造する企業(大阪府、東大阪市)

④中小企業と大企業

製造業では、資本金が3億円以下、または従業員数が300人以下の企業を中小企業といいますが、中小企業の基準を超える企業を大企業といいますが、

④東大阪市内における製造業の従業員数別割合(2016年)(東大阪市の資料)

④東大阪市内の製造業に占める中小企業の割合は、何%だろうか。

④阪神工業地帯では、かつてどのような公害が発生したのか、本文から書き出そう。

④阪神工業地帯では、環境問題に対してどのような取り組みを行ってきたのか、説明しよう。

211

3

移り変わる阪神工業地帯

淀川の下流域にあたる大阪湾の周辺は、明治時代から繊維などの工業が発達し、第二次世界大戦後は阪神工業地帯の中心として日本の工業を支えてきました。しかし、工場が集中する大阪では、1960年代になると、地下水のくみ上げすぎによる地盤沈下や工場の排煙による大気汚染などの公害が深刻になりました。また、工業用地の不足も問題となりました。そこで、大阪湾の埋め立てが進められ、港湾の整備や埋立地への工場の移転が行われました。

臨海部は原料や製品の海上輸送に便利のため、大阪市から堺市、高石市にかけての埋立地には、化学工場や製鉄所などの重化学工業の集中が進みました。しかし1980年代以降、化学や鉄鋼などの工業が伸び悩むと、工場の閉鎖や他地域への移転が進んで埋立地に空き地が目立つようになり、阪神工業地帯の工業出荷額も減少しました。2000年代に入ると、移転した工場の跡地にテレビなどの工場が進出して、一時期、一大生産拠点となりました。しかし、これらの工場は世界的な不況やアジアなど外国との競争の影響を受けて急速に縮小し、現在の臨海部は、太陽光発電のパネルや蓄電池などの新

212

公害だけでなく、国内の産業構造の変化や国際競争など、阪神工業地帯が直面したさまざまな課題と、それに対応する中で変化を続けた経緯を扱っています。さらに現状に加え、将来に向けた展望についてもふれています。

4

古都京都・奈良と歴史的景観の保全

④地方の重要文化財数(2019年)(文化庁資料)

④京都市を訪れる観光客数の変化(京都市資料) ④観光客数は、2011年と比べて約何倍に増えているだろうか。

212 小学校・歴史・公民との関連・文化財や伝統の保存・継承(小)、平安京(国)、平泉(国)、室町(国)

1

環境 短路城とその周辺の景観を守る取り組み

兵庫県の姫路市では、世界遺産に登録されている姫路城を中心としたまちづくりが進められています。例えば、姫路駅と姫路城を結ぶ大通りである大手前通り沿いの地区では、戦後に先駆的に行われた無電柱化をはじめ、建物の高さや外壁の色に基準を設けるなど、姫路城の魅力を引き立てるための景観づくりが進められています。景観の保全には、地域住民の意見も取り入れられており、市と住民が一体となって、世界遺産にふさわしい景観の形成に取り組んでいます。

④景観に活かす「まちづくり」の土産物産(兵庫県、姫路市、2018)

2005年 2018年

④京都市が定める景観政策の例(京都市資料)

④町家を改装したコンビニエンスストア(奈良県、奈良市、2018年撮影)

④「古都」とよばれる京都と奈良における観光資源の例を、本文から書き出そう。

④京都と奈良では歴史的景観を保全するために、どのような取り組みを行っているのか、説明しよう。

213

p.212-213

！ポイント

1

興味・関心を喚起する写真資料

同じ場所でも撮影された時期が違ったり、同じ時期であっても場所が違ったりする写真を掲載しました。複数の写真の比較から、さまざまな疑問が、自然にわくようにしています。

比較ができる写真ページ一覧

ページ	タイトル
p.51 4	雨季と乾季のトンレサップ湖の様子
p.54 1	シェンチェン(深圳)の変化
p.114 1	大型機械を使ったコーヒーの実の収穫
p.114 2	手作業でのコーヒーの実の収穫
p.146 1	「さっぽろ雪まつり」の会場でカーリングをする子どもたち
p.146 2	花見を楽しむ人々
p.179 6	筑紫平野での小麦の収穫と田植えされた水田

ページ	タイトル
p.181 4	八幡製鉄所の移り変わり
p.186 3	洞海湾の変化
p.210 1	大阪湾岸の工業地帯の移り変わり
p.213 6	2005年と2018年の二年坂の様子
p.230 1	収穫前の水田と小千谷縮の雪さらし
p.268 3	高台に造成された新しい住宅地(三王団地)の移り変わり

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開
着実に深まる国土理解 「日本の諸地域」編

「日本の諸地域」編

環境に配慮した林業と漁業（林業、漁業＋環境保全）

- ▶近畿地方の林業と漁業を通して、後継者不足や水産資源の枯渇などの地域の課題について記述するとともに、課題への対応についても記述しています。

節の学習を振り返ろう

- ▶ **左ページ**では既習の**知識**を確認し、**右ページ**では「**地理的な見方・考え方**」を働かせて、各**地方**がどのような**地域**だったのかを**思考・判断**し、**表現**します。

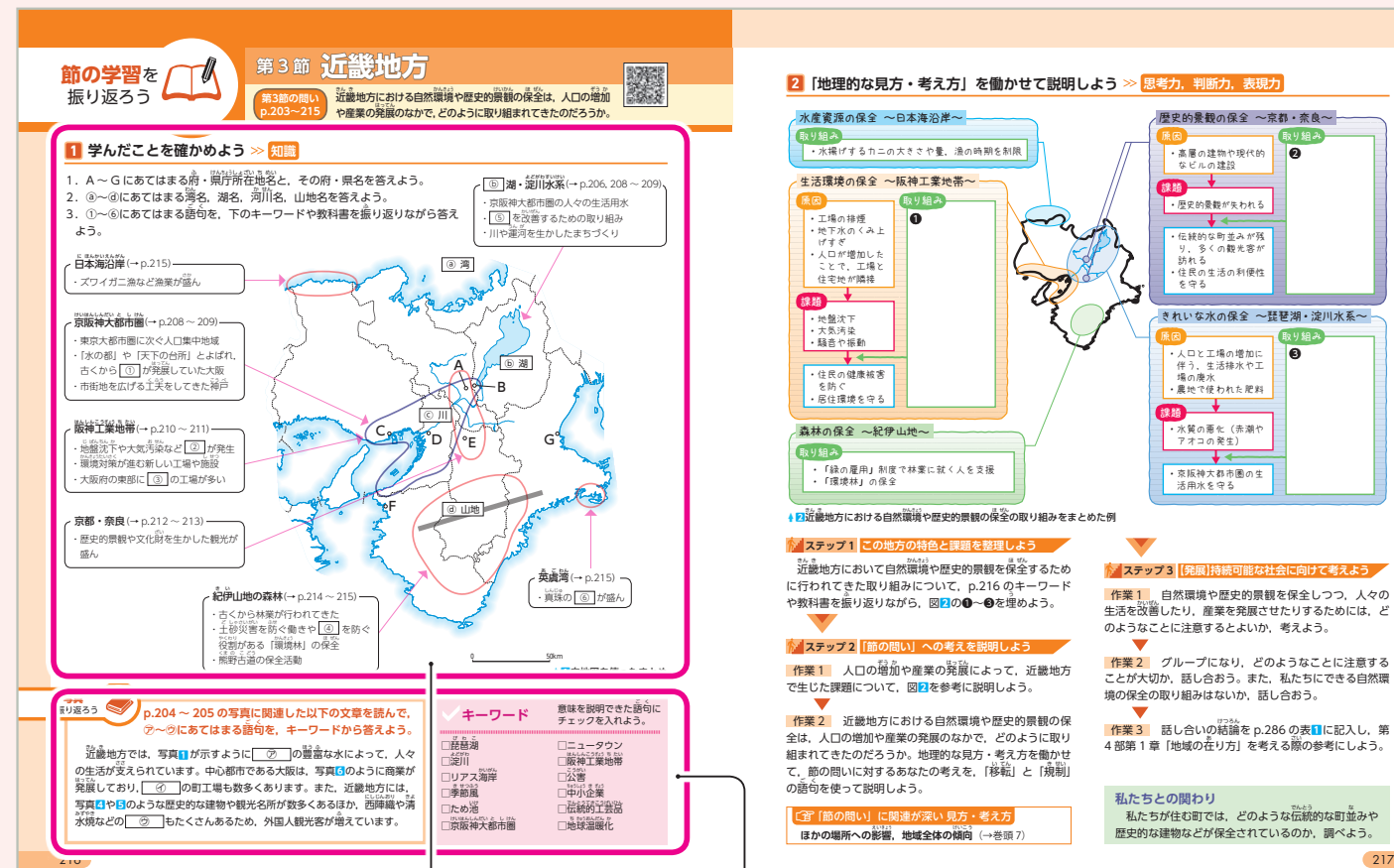
国土理解が
深まる



▲ p.214-215

小学校や他科目との関連を提示しています。既習事項の確認やカリキュラム・マネジメントなどに役立ちます。

紀伊半島の林業を、現状→課題→課題への対策の順に記述しました。地域の産業における、現状と課題への対策について記述しています。地域的特色の理解に役立つだけでなく、持続可能な産業の在り方について考える際の参考にもなります。



▲ p.216-217

学習した知識を白地図上でまとめることで、確認できます。

「写真で眺める近畿地方」や、本文の太字を振り返る課題を通して、近畿地方で学習した知識を確認できます。

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は
本資料p.33-34に掲載

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

世界と日本の諸地域学習の「序説」

文章だけではわかりにくい、地域的特色と地域の課題の関係について、写真やイラストを用いてわかりやすく説明しています。

第2章 世界の諸地域

章のねらい 世界の各州における地域的特色や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。

序説 学ぶにあたって

第2部第1章では、異なる自然環境に住む人々の生活の工夫や近年の生活の変化、世界のさまざまな宗教と生活との関わりなどに着目して学習してきました。

第2章では、p.3で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学びます。各州には、地域を追究する主題が設定しており、この主題に沿って、地域的特色をとらえていきます(図6)。

各州の特色をとらえる際は、州ごとの自然環境や歴史・文化、産業といった地域的特色を学習します(図3)。そのなかで、経済格差や熱帯林の破壊など、地域にみられる課題にも目を向けてみましょう。これらの課題の中には、地球規模で共通している**地球的課題**もあります。そのため、これらの課題を解決するための方法を追究することが、私たちの住む町をよりよくするためのヒントにもなります。

地域的特色



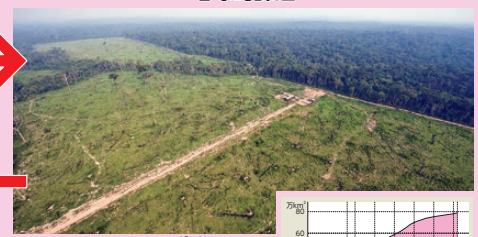
1 広大な牧場を移動する牛(ブラジル)

合計*	インド	ブラジル	その他
893万	14.1%	12.1%	9.1%

*水牛などを含みます。

2 牛肉の輸出国(2016年)(FAOSTAT)

地球的課題

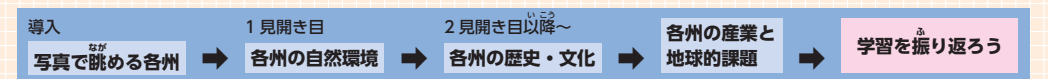


3 伐採された熱帯林(ブラジル、パラ州)

4 アマゾンの森林伐採面積の累計 (INPE 資料)

例えば、ブラジルは世界でも有数の牛肉の輸出国です。牛肉の輸出は、国の経済を支える大きな産業であり、ブラジルの産業における特色の一つになっています(→p.114)。しかしながら、牛を飼育する牧場は熱帯林を伐採してつくられるため、熱帯林の破壊や、地球温暖化という地球的課題を引き起こす原因にもなっています(→p.116)。

このように、地域的特色は地球的課題にも結び付いており、**持続可能な社会**(巻頭 1~2, p.286)を実現するためには、これらの地球的課題の解決に取り組んでいくことが大切です。



第2部第2章における各州の学習の展開

州	地域を追究する主題	注目する地球的課題	州	地域を追究する主題	注目する地球的課題
アジア州	急速な経済成長	都市・居住問題	北アメリカ州	巨大な産業	生産と消費の問題
ヨーロッパ州	国どうしの結び付きの強まり	経済格差	南アメリカ州	農地や鉱山の開発	熱帯林の破壊
アフリカ州	特定の産物に頼る経済	食料問題	オセアニア州	他地域との関係	多文化の共生

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題 地域を追究する主題は、各州を貫く「節の問い」にもなっています。

p.47

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題について一覧で示し、各州でどのような地球的課題を扱っているかが一目でわかるようになっています。

世界と日本の諸地域学習の冒頭には「序説」を設置し、地域的特色を追究する際の視点(主題)と地球的課題・地域の課題の関係を端的に示しています。

地域にみられる課題には、**現在進行している事例**だけでなく、**課題を克服した事例**も含めています。これらの事例を参考にすることで、より具体的に地域の持続可能な発展について考えることができます。

第3章 日本の諸地域

章のねらい 日本の各地方における地域的特色や、その特色と地域にみられる課題との関係をとらえよう。

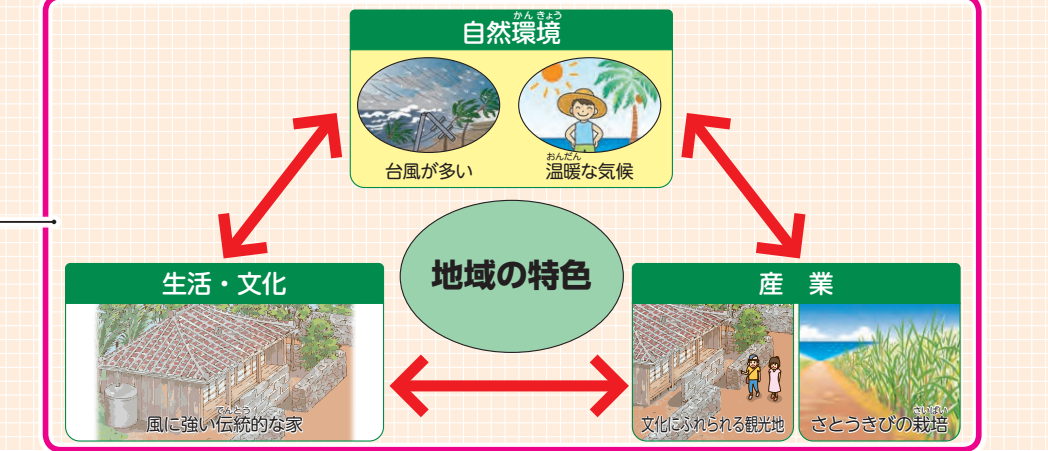
序説 学ぶにあたって

第3部第2章では、日本全体の特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点から学習してきました。しかし、その特色は地方によって異なります。

第3章では、p.166で学習した日本を七つの地方に分ける方法を利用して、日本の諸地域を学びます。各地方には、地域を追究する際に注目する視点が設定されており(図2)、この視点に注目しながら、地域的特色をとらえてい

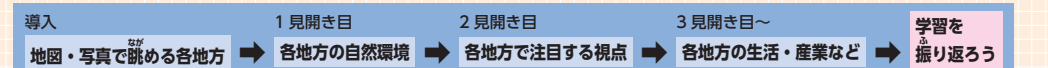
きます(図1)。

各地方の特色をとらえる過程においては、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのか、ということにも目を向けてみましょう。この章の学習を通して、地域社会をよりよくするためには何が効果的なのかを考え、最終的には私たちの住む町で何をすればよいのかを考えましょう。



地域のさまざまな事象には関連があります。例えば南西諸島では、「温暖な気候」であるからこそ、「さとうきび」という特産品が生まれ、「台風が多い」という自然環

境の課題があるからこそ、「風に強い家」が生まれました。さらに、「風に強い伝統的な家」は、観光資源にもなっています。これらの事象すべてが、地域的特色をつくり出しています。



第3部第3章における各地方の学習の展開

地方	注目する視点	地域にみられる課題	地方	注目する視点	地域にみられる課題
九州地方	自然環境	温暖な気候を生かした産業の発展 火山への対策	中部地方	産業	地域の特性を生かした新たな産業の発展
中国・四国地方	交通や通信	交通や通信を生かした産業の発展 過疎地域の活性化	関東地方	人口や都市・村落	人口の集中を生かした産業の発展 過密への対策
近畿地方	環境保全	環境に配慮した産業の発展 自然環境や歴史的景観の保全	東北地方	生活・文化	伝統文化を生かした産業の発展 伝統文化の継承
			北海道地方	自然環境	寒冷な気候を生かした産業の発展 厳しい寒さや雪への対策

各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域にみられる課題

p.170

日本の各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域にみられる課題について一覧で示し、各地方でどのような課題を扱っているかが一目でわかるようになっています。

【特色】
3 深い学びにつながる「問い」
見通し・振り返り学習がしやすい構造

①節(章)の構造

節(章)を通して、見通し・振り返り学習がしやすい構造になっています。この構造により、単元のまとまりで課題解決的な学習を行うことができ、「深い学び」につながります。

【例】第2部第2章第4節「北アメリカ州」(p.96～107)

節(章)の問い

▶ 節(章)の始めには、「節(章)の問い」を設置しています。「単元を貫く問い」を明示することで、見通しをもって課題追求学習に取り組めます。

第4節の問い
p.94～105
北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

第4節 北アメリカ州

注目する地理的課題：生産と消費の問題

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

北アメリカ州の自然環境

北アメリカ大陸とカリブ海の島々

北アメリカ州には、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコからパナマに至る北アメリカ大陸の国々、カリブ海に浮かぶキューバ、ジャマイカなどの西インド諸島の国々があります。アメリカ合衆国の西側には、標高4000mを超える高山が連なるロッキー山脈が、カナダにかけて南北に長く伸びています。東側には、標高1000m程のなだらかなアパラチア山脈があります。二つの山脈の間には、高原状の大平原であるグレートプレーンズや、北アメリカ大陸で最長のミシシッピ川が流れる中央平原が広がります。ミシシッピ川の西側には、メキシコ湾岸からカナダにかけてプレーリーとよばれる大草原が広がり、世界的な農業地帯となっています。メキシコは、中央にメキシコ高原があり、国土の大部分が高原と山地になっています。

1 北アメリカ州の自然環境

北アメリカ州の自然環境には、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。

北アメリカ大陸とカリブ海の島々

北アメリカ州には、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコからパナマに至る北アメリカ大陸の国々、カリブ海に浮かぶキューバ、ジャマイカなどの西インド諸島の国々があります。アメリカ合衆国の西側には、標高4000mを超える高山が連なるロッキー山脈が、カナダにかけて南北に長く伸びています。東側には、標高1000m程のなだらかなアパラチア山脈があります。二つの山脈の間には、高原状の大平原であるグレートプレーンズや、北アメリカ大陸で最長のミシシッピ川が流れる中央平原が広がります。ミシシッピ川の西側には、メキシコ湾岸からカナダにかけてプレーリーとよばれる大草原が広がり、世界的な農業地帯となっています。メキシコは、中央にメキシコ高原があり、国土の大部分が高原と山地になっています。

p.96

学習課題

▶ 各見開きに、「節(章)の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。

3 大規模な農業と多様な農産物

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

大規模な農業

アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用して作られています。農家は大型機械を使い、少ない人手で、高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農作業は家族数人で行われていました。しかし現在は、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国になっています。

自然環境に合わせた農業

アメリカ合衆国では、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆などは、西経100度付近から東側の降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく牧草地として利用され、肉牛の放牧が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部には豊富な地下水があり、これを利用した大規模なかんがい農業がみられ、

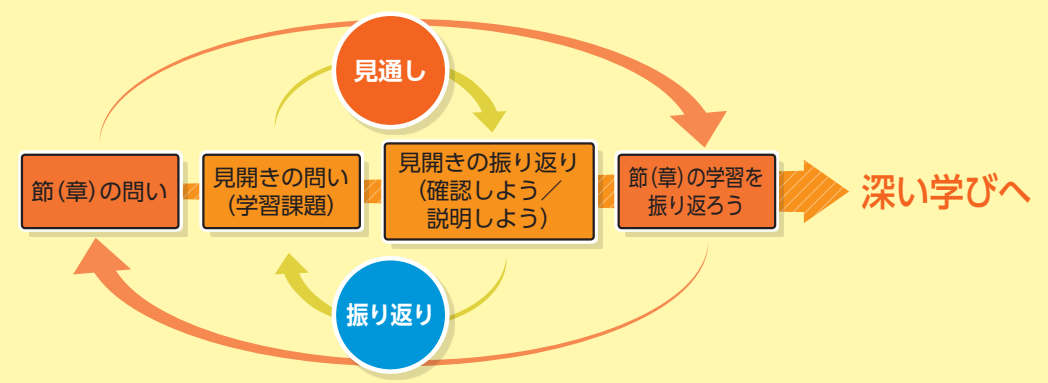
p.100-101

学習課題
北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

！ポイント

深い学びにつながる「問い」のイメージ

本教科書は右のイメージのように、節(章)の問いを受けた「問い」を各見開きに設置しています。こうして見通し・振り返り学習を積み重ねることで、課題を追究していけるよう「問い」を構造化しています。



確認しよう/説明しよう

▶ 各見開きに、「学習課題」に対応した「確認しよう/説明しよう」を設置しています。

2 世界の産業と地域

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

大規模な農業

アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用して作られています。農家は大型機械を使い、少ない人手で、高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農作業は家族数人で行われていました。しかし現在は、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国になっています。

自然環境に合わせた農業

アメリカ合衆国では、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆などは、西経100度付近から東側の降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく牧草地として利用され、肉牛の放牧が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部には豊富な地下水があり、これを利用した大規模なかんがい農業がみられ、

アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図3を見て確認しよう。

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

見開きの紙面構成の詳しい説明は次のページへ

学習を振り返ろう

▶ 節(章)の最後には「学習を振り返ろう」を設けています。各見開きで学習した内容を活用して、「節(章)の問い」を振り返る中で、思考力・判断力・表現力を高めます。

p.106「節の学習を振り返ろう」タイトル

第4節 北アメリカ州

第4節の問い
p.94～105
北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

2 「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しよう >> 思考力、判断力、表現力

世界に与えている影響

農業

生活・文化

工業

特徴的な産業

アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図3を見て確認しよう。

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。地理的な見方・考え方を働かせて、節の問いに対するあなたの考えを、「適地適作」と「大量生産方式」の語句を使って説明しよう。

私たちの関わり

日本の資源自給率は、p.156の図2で確認しよう。また、私たちの生活のなかで、大量消費しているものはないか、考えよう。

p.107

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は本資料p.33-34に掲載

特色 3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

②見開きの構造

各見開きでも見通し・振り返り学習がしやすい紙面構造になっています。各見開きの学習内容は、節(章)の問いを受ける形で学習課題を設置し、展開できるようにしています。

導入資料

見開きの学習内容の核心をつき、かつ、生徒に「なぜ」を抱かせる資料を掲載しています。

学習課題

見開きの学習でおさえるべき目標を示しています。毎時の学習内容を見通すことができます。

1 広大な小麦畑での収穫作業(アメリカ合衆国、コロラド州)

2 大型コンバインを使って収穫を請け負うコンバインクルーの話

5〜9月までの間、収穫時期に合わせて契約した農家の畑の小麦を次々と収穫していくんだ。どの農地も自分の現在地が分からなくなるほど広大だから、人工衛星を使ったシステムで位置を確認しているよ。収穫が終わったらコンバインをトラックに積んで、次の畑まで何百kmも移動するんだ。3か月の移動距離は、日本の北海道から沖縄よりも長いんだよ。

3 コンバインクルーの移動ルートの例 (Goode's World Atlas 2010, ほか)

3 大規模な農業と多様な農産物

	アメリカ合衆国	日本
1人あたり*の耕地面積 (ha)	60.5ha	1.7ha
1人あたり*の穀物収量 (t)	185.9t	4.8t

4 アメリカ合衆国と日本の農業の比較(2016年)(FAOSTAT, ほか) 資料活用

	アメリカ合衆国	フランス	ドイツ	オーストラリア	インド	中国
小麦	12.0%	12.0%	9.3%	9.3%	9.3%	9.3%
大豆	42.8%	38.2%	38.2%	38.2%	38.2%	38.2%
とうもろこし	38.0%	16.6%	14.8%	14.8%	14.8%	14.8%
総計	36.4%	12.8%	11.9%	11.9%	11.9%	11.9%

5 世界の主な農産物の輸出に占めるアメリカ合衆国とカナダの割合(2016年)(FAOSTAT)

p.100-101

ポイント

節(章)と見開きの「問い」の関係

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「節(章)の問い」の追究につながります。

「節(章)の問い」と各見開きの「問い(学習課題・確認しよう・説明しよう)」の関係をイメージした図

節(章)の問い



5 円形農地に囲まれた肥育場(フィードロット)(右)とスプリンクラー(下)(ともにアメリカ合衆国、テキサス州) 地下水をくみ上げ、回転するスプリンクラーで散水するので、農地は円形になり、ここで栽培された穀物が肥育場の肉牛のえさになっています。

6 アメリカ合衆国とカナダの主な農業地域 (Goode's World Atlas 2010, ほか)

7 大規模な肥育場(フィードロット)(アメリカ合衆国、テキサス州) 放牧地で1〜2年程、放牧された肉牛が、出荷前に集められる施設です。フィードロットでは、米糞が多いえさが与えられ、肉質をよくしてから出荷されます。

8 世界の食料庫とそれを維持する巨大企業

9 アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図6を見て確認しよう。

10 アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

確認しよう

本文や図版から、学習上大切な事項を書き出す作業です。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な習得を促しています。

説明しよう

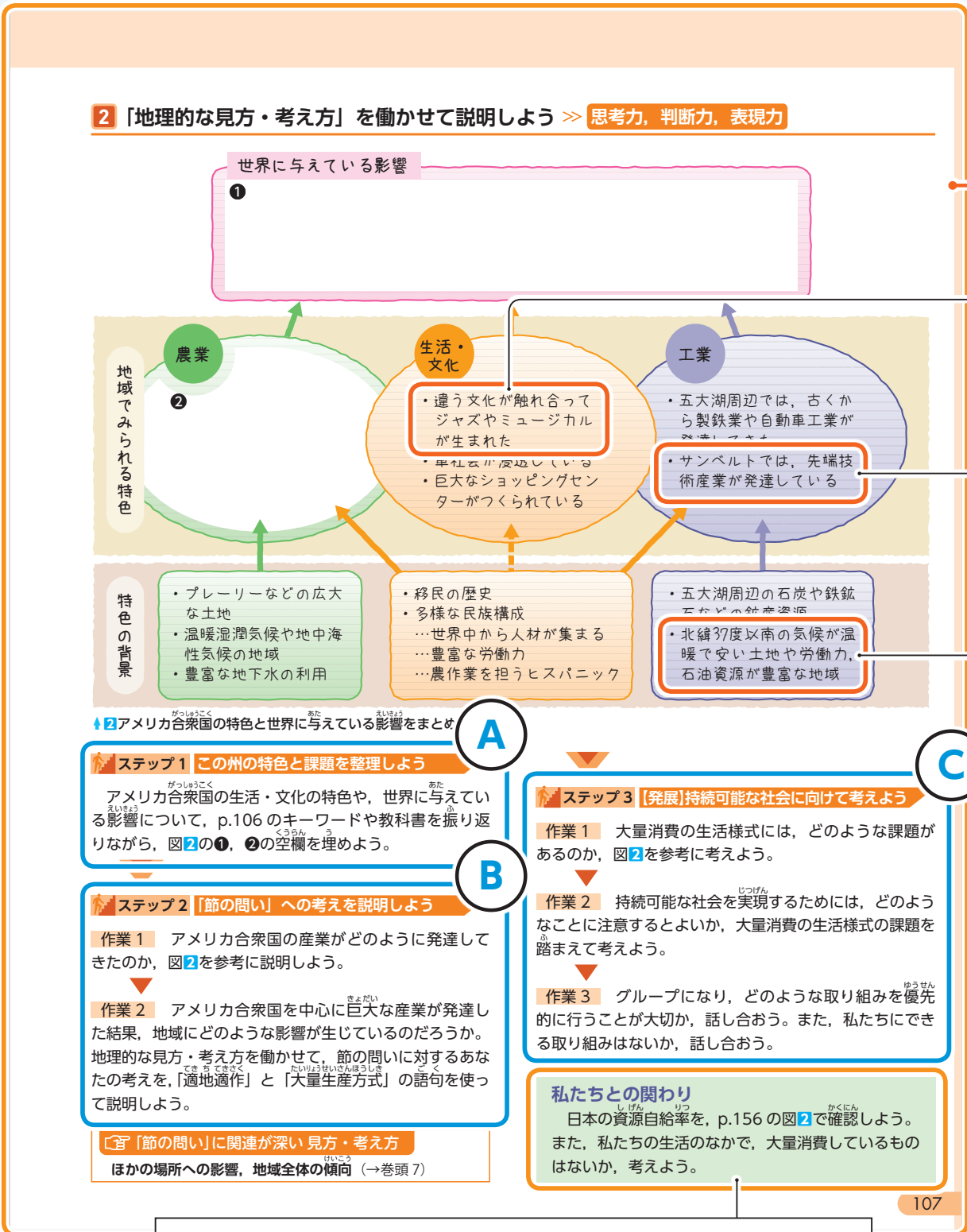
学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いです。思考力・判断力・表現力の育成を促しています。

次ページ「学習を振り返ろう」へ

深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

③「学習を振り返ろう」

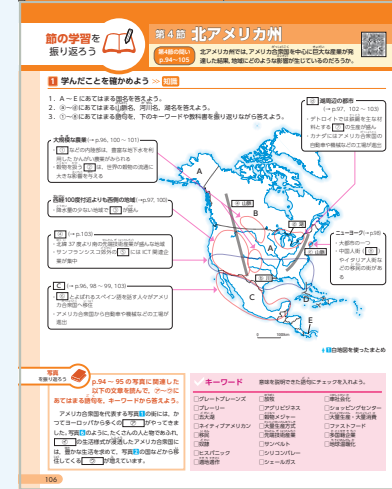
「節(章)の問い」を受けて、単元末に「学習を振り返ろう」を設置しています。「地理的な見方・考え方」を働かせて課題を振り返り、思考力・判断力・表現力を高めながら、「深い学び」を実現できる構成にしています。



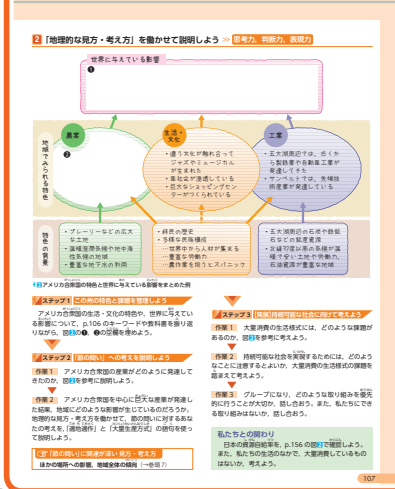
p.107

最後に私たちとの関わりについて、考える問いを設定しています。この問いは、第4部の「地域の在り方」を構想する際のヒントにもなります。

左ページ：知識の確認



右ページ：思考・判断・表現



p.106-107

学習を振り返ろう

▶ 左ページで知識を確認し、右ページで「節(章)の問い」を追究する中で、思考力・判断力・表現力を高める構成にしています。

説明しよう

北アメリカ州に多様な民族が集まったことによって生じた変化を一つ挙げ、説明しよう。

p.99の「説明しよう」

説明しよう

アメリカ合衆国で先端技術産業が盛んになった背景について、「サンベルト」の語句を使って説明しよう。

p.103の「説明しよう」

図2では、各見開きの本文や「確認しよう」「説明しよう」を活用して、地域的特色がまとめられることを解答例の形で提示しています。

作業1の解答例

アメリカ合衆国は多様な自然環境と世界中から集まる豊富な人材を生かして産業を発展させた。など

作業2の解答例

アメリカ合衆国は、適地適作で多くの農産物を生産し、世界中に輸出している。また、工業では大量生産方式のしくみが世界中に普及するようになった。など

作業1の解答例

使用する以上の物が大量に生産されるため、余った物が廃棄されるという課題が生じる。など

作業2の解答例

必要な量を考えて生産を行い、余った物はリサイクルする。など

ステップ1

州の地域的特色をまとめる

- ▶ 「節の問い」に答えるために、まず各州の特色をまとめます。
- ▶ 地域的特色のポイントが端的にわかるよう図解しています。
- ▶ 生徒の参考となる解答例を掲載しています。

ステップ2

節の問いに対して自分の答えを整理する

- ▶ ステップ1での整理をもとに、「節の問い」への自分なりの答えを思考・判断し、文章に表現します。

ステップ3

節の問いの答えをもとに多角的に課題を考察する

- ▶ 地域が抱える課題に対して、話し合いなどを通し、改善・解決の道筋を自分なりに考察します。

深い学びへ

「地理的な見方・考え方」を丁寧に説明

教科書の巻頭7では、「地理的な見方・考え方」とは何かが端的に理解できる事例を、わかりやすく説明しています。

地理的な見方・考え方について

漢字の看板があふれるニューヨークの街角
(アメリカ合衆国)

地理は、目に映るもののすべてが題材になります。ここでは、地理を学習する際のヒントとなる視点を示しています。ここで挙げた視点を意識しておく、各ページで何を学ばよいか、分かりやすくなります。また、ここで挙げた視点をいくつか組み合わせると、より地理の学習が楽しくなります。

その場所の特徴

そこはどのような場所だろうか？

でもブラジルって、日本とは全く違う位置にあるよね。そこになぜ日本人の街があるのかな？

ブラジルには、日本人と関係の深い街があるんだって！

ほかの場所への影響

その場所での出来事は、ほかの場所にもどのように影響しているのだろうか？

もし輸入されるえびがなくなったら、私たちの食事に影響があるのかな？

インドネシアにはえびの養殖場があって、日本にも輸出しているんだって！

位置や分布

どこにあるのだろうか？どこに広がっているのだろうか？

板橋区ってどの辺りにあるのかな？板橋区内の学校は、どこに点在しているのかな？

友達が通っている学校は、東京都板橋区にあるんだよ。板橋区の中でも、西の端にあるんだ。

人と自然の関係

人々の生活と自然の間には、どのような関係があるのだろうか？

でも木がない所では、家は何で造られているんだろう？

木がたくさん生えている所の家は、やっぱり木でできているんだね。

地域全体の傾向

その地域全体を特徴づけているものは何だろうか？

三つの地域のまとまりには、それぞれ何か共通するものがあるのかな？

同じ2月の写真だけど、地域で景色が全く違うね。

位置や分布

「それはどこにあるのだろうか？」「なぜそこに分布するのだろうか？」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう、地図や本文、図版などを工夫しています。

第2章 日本の姿

第2章の問い

日本の位置や広がりには、どのような特徴があるのだろうか？

1 世界の中での日本の位置

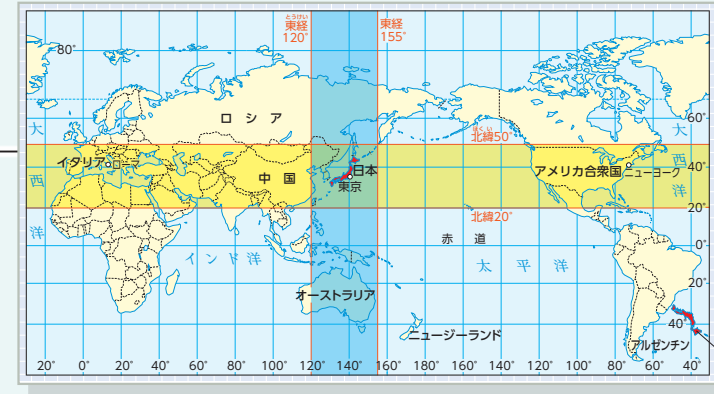
私たちが暮らす日本の位置は、緯度・経度で見た場合や、世界の他地域から見た場合、どのように表されるのだろうか。

緯度・経度で世界の中での日本の位置を説明するには、第1部第1章で学習した緯度・経度や、周りの大陸・海・国・地域などを知る必要がある。

緯度・経度を用いて日本の位置を見てみると、緯度では、日本はおよそ北緯20度から50度の間にあり、アメリカ合衆国や中国、アフリカ大陸北部からヨーロッパ南部などと同じくらいです。南緯では、南緯20度から50度の間にあり、オーストラリアと同じくらいです。

【例】p.14「世界の中での日本の位置」

日本を世界地図上で表現することで、日本の位置を視覚的に捉え、本文で説明することで、分布についても理解できます。



p.14 3

緯度・経度を用いて日本の位置を見てみると、緯度では、日本はおよそ北緯20度から50度の間にあり、アメリカ合衆国や中国、アフリカ大陸北部からヨーロッパ南部などと同じくらいです。南緯

p.14 本文 4-6 行目

【例】p.32「乾燥した地域の暮らし」

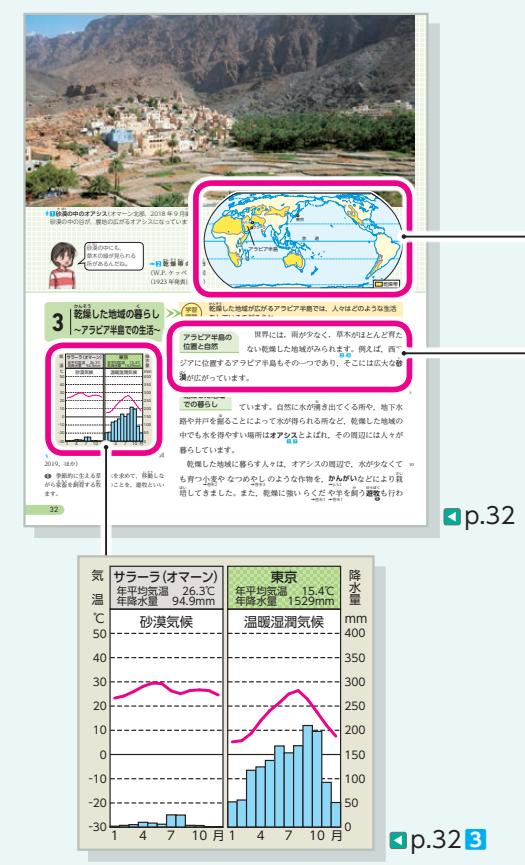
乾燥帯の分布を地図や本文から理解し、雨温図からなぜ乾燥帯となっているのかを考えることができます。



p.32 2

アラビア半島の位置と自然 世界には、雨が少なく、草木がほとんど育たない乾燥した地域がみられます。例えば、西アジアに位置するアラビア半島もその一つであり、そこには広大な砂漠が広がっています。

p.32 本文 1-4 行目



p.32

p.32 3

特色

4

「地理的な見方・考え方」を育む資料
見方・考え方が働く図版や本文

場所

▶「それはどんな場所なのだろうか?」「それはその場所だけにあるものだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。

【例】p.32「乾燥した地域の暮らし」、p.34「温暖な地域の暮らし」

場所がイメージしやすく、ほかのページと比較できるため、「地理的な見方・考え方」が自然に働きます。



p.32 1



p.34 1

人と自然環境との相互依存関係

▶「そこでの生活は、自然環境からどのような影響を受けているのだろうか?」「その生活は変化するのだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。

使ったうす焼きパンのような料理がよく見られます。衣服は日中の強い日ざしや砂ばこりから身を守るために、長袖で、丈の長いものを着ています。また、森林が少なく木材を得にくいので、伝統的な家には、土をこねて作った日干しれんがを利用しています。

p.33 本文 2-5 行目

【自然環境のもとでの生活】



住 日干しれんがで造られた家々(オマーン北部、2018年9月撮影)
資料活用 家の屋根の様子に注目しよう。



衣 伝統的な衣服を着た人々(オマーン北部、2018年9月撮影)
資料活用 服のつくりや丈に注目しよう。

p.33 4, 5

【生活の変化】

p.33 8



8 ショッピングセンターにある日本の雑貨店(アラブ首長国連邦、ドバイ、2018年撮影)

【例】p.32「乾燥した地域の暮らし」

乾燥した自然環境のもとでの生活がわかる
本文と資料を掲載するとともに、生活の変化がわかる資料を掲載しました。

空間的相互依存作用

▶「そこは、それ以外の場所とどのようにつながっているのだろうか?」「なぜそのようなつながりがあるのだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。



p.108 1

【例】p.108, 112「南アメリカ州」

南アメリカ州とヨーロッパ州のつながりが、カーニバルを題材に理解できます。

融合から生まれたさまざまな文化
はな華やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはもとも、ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事ですが、アフリカ系の人々がもち込んだ文化が加わったことで、サンバのリズムで踊るにぎやかな祭りに変化しました。アルゼンチンの舞踏音

地理的事象の背景 p.112 本文 16 行目 -p.113 3 行目

文明が栄えていました。しかし 16 世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして植民地をつくり、ヨーロッパの文化を南アメリカにもち込みました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポ

p.112 本文 3-6 行目

地域

▶「そこはどのような特徴をもった地域なのか?」「どのような地域になれば良いか?」といった「地理的な見方・考え方」が働く構成になっています。

【例】p.206～215「近畿地方」

日本の諸地域では、各地方を一つのテーマに沿って、自然環境、生活・文化(歴史)、産業などの切り口で展開することで、地域の特徴を捉えやすくしています。



p.206

「近畿地方」の展開については
本資料 p.21-26 参照



p.208



p.212

特色

4

「地理的な見方・考え方」を育む資料

充実した地理的技能の作業

写真の読み取り方

▶写真から地理に関する情報を読み取る技能を身に付けられます。写真が多く登場する前の、第2部第1章「人々の生活と環境」の冒頭に設置しています。

技能を
みがく

8

写真の読み取り方

写真を読み取るポイントを知っていると、実際には行ったことがない場所でも、写真からその土地の気候などの自然環境や、人々の生活の様子などを読み取ることができます。ここでは、市場の写真を用いて、写真を見るときに注目すべきポイントを知り、写真からさまざまな情報を得る方法を学んでいきましょう。

帝国書院撮影

衣服や店の様子に注目

パラソルで強い日差しを避け、半袖で風通しがよさそうな衣服を着ている。

売り物に注目

パイナップルやパパイヤなど、南国の果物がたくさん売られている。

この写真が撮られた地域は暑い気候の地域ではないかと考えられる。

インドネシアの市場
(フロレス島、2018年9月撮影)

売り物に注目

乾燥した気候に強いらくだが売られている。

衣服に注目

長袖で丈の長い服を着て、頭に布を巻きつけた人が多い。

らくだが飼育されていることから乾燥した地域であり、人々は強い日ざしや砂ぼりから身を守るための衣服を身につけていると考えられる。

アラビア半島のらくだ市
(アラブ首長国連邦 西部、2018年9月撮影)

帝国書院撮影

やってみよう

写真6を、次のアとイのポイントで観察し、読み取ったことから考えられることを、自分なりに説明しよう。

ア. どのような商品が、どのような状態で売られているか。

イ. 市場に来ている人は、どのような衣服を身につけているか。

シベリアの市場
(ロシア、ヤクーツク、1月撮影)

自社撮影写真により、地理的事象がより端的に読み取れる写真を使用しています。

写真の読み取り方や地図やグラフの読み取り方など、「地理的な見方・考え方」を働かせる上でも大切な技能を着実に習得できるよう、「技能をみがく」を23テーマ設置しています。学習内容に応じて、適切な技能を習得できるよう、教科書での配置も工夫しています。

主題図の読み取り方

▶主題図の意味や見方に関する技能を身に付けられます。主題図が多く登場する、第2部第2章「世界の諸地域」の学習の前に設置しています。

技能を
みがく

主題図の読み取り方

地図には、地形図(→p.134)や日本全国のように、地形や地名、道路などのさまざまな情報を、特定のテーマに偏ることなく描いた一般図のほかに、特定のテーマを詳しく描いた主題図があり、これを主題図といいます。なかでも、統計資料を地図に表したものは、統計主題図ともよばれます。

地理の学習では、統計資料を読み取るだけでなく、その分布の傾向から、地域の特徴をつかむことも大切です。統計主題図には、表したい統計資料の種類によって、さまざまな表現方法があります。また、複数のテーマの統計主題図を比較すると、1枚の統計主題図からは分らなかったことが読み取れることがあります。

やってみよう

- 図1のCの統計主題図を見て、日本企業の進出が多い所はどの辺りか。答えよう。
- 図1のDの統計主題図を見て、人口密度が高い所はどの辺りか。答えよう。
- 図1のAとBの統計主題図を比較して、降水量の多さと小麦の栽培には、どのような関係があるか考えよう。

さまざまな統計主題図

①ドットマップ…分布地点の数量を点(ドット)で表した図です。人口や生産量などの集中の度合いが読み取りやすくなります。

②等値線図…等しい数値の地点を線で結んだ図です。気温を示した等温線図、降水量を示した等降水量線図などがあります。

③図形表現図…円や正方形などの図形やイラストの大きさによって、地域ごとの統計数値を比較できるようにした図です。

④階級区分図…地域ごとの比率や密度を、色や模様などで表現した図です。

点(ドット)が集まる所に注目すると、西部よりも東部で米や小麦の栽培が盛んであり、その中でも北部は小麦、南部は米を栽培していることがわかります。

円が大きい所に注目しよう。

階級によって分けられている色に注目しよう。

p.46

技能をみがく一覧(全23テーマ)

1	p.5	地図帳の統計資料の使い方
2	p.9	地図帳のさくいんの引き方
3	p.9	地図帳での緯度・経度の調べ方
4	p.11	地球儀での距離と方位の調べ方
5	p.12	世界の略地図の描き方
6	p.17	時差の調べ方
7	p.24	日本の略地図の描き方
8	p.27	写真の読み取り方
9	p.29	雨温図の読み取り方
10	p.45	グラフの作り方
11	p.46	主題図の読み取り方
12	p.133	ルートマップの作り方
13	p.134	地形図の使い方①～縮尺と地図記号～
14	p.136	地形図の使い方②～等高線と断面図～
15	p.136	新旧の地形図の比較
16	p.137	地形図の使い方③～「地理院地図」～
17	p.139	調査ノートの取り方
18	p.139	聞き取り調査の手法
19	p.152	ハザードマップの読み取り方
20	p.153	防災情報の入手のしかた
21	p.155	人口ピラミッドの読み取り方
22	p.294	展示発表のしかた
23	p.295	ポスターの作り方

地形図の使い方

▶地図記号や等高線、新旧地形図の比較などの技能を身に付けられます。地形図は、地域調査を行う際に使用することが見込まれるため、第3部第1章「身近な地域の調査」の中に設置しています。

技能を
みがく

14

地形図の使い方② 等高線と断面図

地形図には、土地の起伏を表すために、地表の同じ高さの所を線で結んだ等高線が描かれています。等高線には、表1のように種類があり、その種類によって間隔が異なります。等高線の間隔が広いほど地表の傾斜は緩やかで、等高線の間隔が狭いと傾斜が急になります。山頂や等高線の途中にある数字は、その場所の標高を示しています。

やってみよう

図3の断面図を完成させ、等高線の間隔と地表の傾斜の関係を確かめよう。

技能を
みがく

15

新旧の地形図の比較

地形図は、明治時代から何年かおきに作られています。そのため、地域の現在と昔の様子を比較するには有効な資料で、地形や土地利用、道路などが、どのように変化してきたのかを確認することができます。

やってみよう

- 2019年の地形図中に赤色で示した道路を、1955年の地形図中で探そう。
- 2019年の地形図中のAで示した範囲において、土地利用が畑となっている部分に緑色で着色しよう。
- 1955年と2019年の地形図を比較して、傾いている点や異なる点を挙げよう。

p.136

SDGsの実現に向けたさまざまな資料 具体的な地域事例を多数掲載

SDGsを紹介した巻頭ページ

▶ 地理的分野の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけるため、巻頭ページでSDGsに該当する世界の事例を紹介しています。



卷頭1-2

SDGsの概要について説明しています。



SDGsの目標のどれに該当するかを示しています。

(→ p.105, 116)。

この見開きにある写真は、
本文ページの資料としても
使用できます。

「日本の諸地域」で取り上げた地域事例

▶ 第3部第3章「日本の諸地域」では、各地方の節末に特設ページ「地域の在り方を考える」を設置し、SDGsに関連した地域の取り組みを紹介しています。



▲ p.186



▲ p.234

これらの事例は、第4部第1章「地域の在り方」を構想する際の参考にもなります。

・自然環境の再生から資源循環型社会へ
(p.186)

▲ p.292 4

「地域の在り方を考える」
掲載箇所一覧（全7テーマ）

ページ	地方	テーマ
p.186	九州地方	自然環境の再生から資源循環型社会へ
p.202	中国・四国地方	通信網を生かした地域おこしの取り組み
p.218	近畿地方	環境につちかわれた産業の発展のために
p.234	中部地方	時代の変化に対応する産業の創出
p.252	関東地方	都市と農村の交流の取り組み
p.268	東北地方	災害からの復興と生活の場の再生
p.284	北海道地方	地域の多様な文化を大切にする取り組み

SDGsの実現に向けたさまざまな資料

防災・環境・共生への意識が高まる工夫

本文

(p.148-149)

日本で発生する自然災害について記述しています。地形や気候などの自然条件と関連付けて理解できます。

本文

(p.150-151)

防災や減災への工夫など、災害への取り組みについて記述しています。災害への備えることで、災害時にどう行動すべきか理解できます。

技能

(p.152-153)

ハザードマップを用いたシミュレーション学習に加えて、自分たちの地域で生じうる災害と避難の方法を考えることで、災害に備える意識を高められるようにしています。

④ 熊本地震で被害を受けた熊本市の石垣(熊本県、熊本) **⑤** 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって発生した津波を越ええる様子(岩手県、宮古市、2011年撮影)

日本の周辺では、大きな地震がこんなにたくさん起きているんだね！

⑥ 日本列島周辺のプレート 日本列島の周辺には四つのプレートの境界が集中しているため、プレートどうしがぶつかり合う力によって地震が発生しやすくなっています(→p.142)。

➡ 主な火山と地震の震源地(理科年表2019、ほか) **資料活用** 火山と震源地の位置に注目しよう。

学習課題

日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのような関係があるのだろうか。

日本は、環太平洋造山帯に位置しているため、地震が多く、各地に分布する火山の活動も活発

▲ p.148



防災訓練で津波避難タワーに避難する人々（静岡県、富士市）



■プレート境界
■数字は写真番号を示しています。

●完成・トラフ

想定される津波の最大の高さ

最大で5mより高い津波が予想される海岸（赤線）
最大で1～5mの津波が予想される海岸（青線）

●南海トラフの巨大地震が起きた際に発生すると想定されている津波の高さ（内閣府資料）

どうしてこんなに高いタワーが作られたのかな？

解説 南海トラフ

海道の深い部分にある幅をもった溝で、海溝ほどの深さのない所はトラフとよばれています。日本の太平洋側にはいくつかのトラフがあり、南海トラフは、静岡県から鹿児島にかけての太平洋沖に位置しています。

社会科3分野共通の特色

① 3分野の関連を図った10のポイント

社会科3分野(地理・歴史・公民)での関連や、地図帳・小学校との関連を図っています。
また、共通で防災・領土・SDGsを重視しています。

1 主体的・対話的な学びを促す「導入」

▶写真やイラストを効果的に使った導入を設けています。興味・関心を高めるだけでなく、これから学ぶ内容を見通すことができます。

地理 ▼「写真で眺める南アメリカ州」 教科書p.108-109など



歴史 ▼「タイムトラベル」 教科書p.48-49など



公民 ▼「学習の前に」 教科書p.27-28など



2 単元を貫く「章(節)の問い」

▶章(節)のまとまりごとに「問い」を設け、見通しをもって学習に取り組みます。

地理 ▼「節の問い」 教科書p.50など

第1節の問い
p.48~63
アジア州における急速な経済成長は、地域にどのような影響を与えているのだろうか。

歴史 ▼「節の問い」 教科書p.94など

第1節の問い
p.94~101
ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。

公民 ▼「節の問い」 教科書p.127など

第3節の問い
p.127~142
経済活動を活発にしているために、企業はどのような役割や責任を果たすべきなのだろうか。

3 深い学びに導く「章(節)の学習を振り返ろう」

▶章(節)を通して得た知識および技能を生かして課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を育み、深い学びにつながられます。

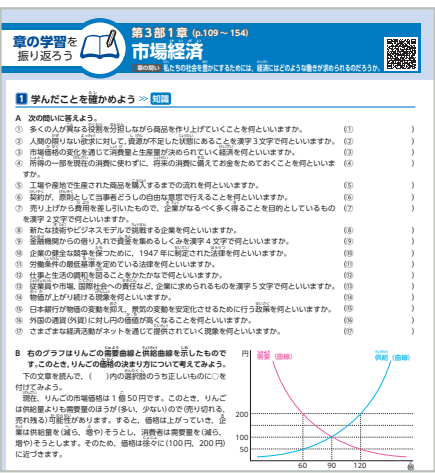
地理 ▼「節の学習を振り返ろう」 教科書p.106-107など



歴史 ▼「節の学習を振り返ろう」 教科書p.146-147など



公民 ▼「章の学習を振り返ろう」 教科書p.155-156など

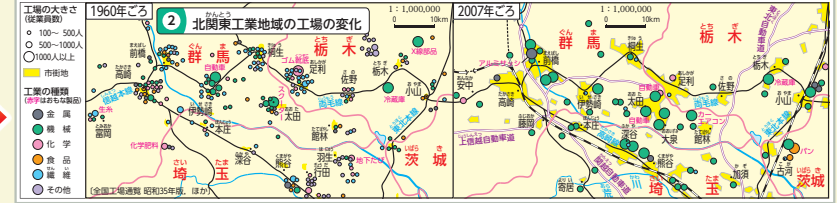


+α アルファ 地図帳との関連

教科書p.247本文4-13行目

北関東への工場進出と流通の変化
工場の進出は、栃木県や群馬県、茨城県といった北関東にも広がりました。北関東は、もともと繊維工業や航空機の生産が盛んな地域で、その技術や広い土地を活用するために、県や市町村が工業団地を造り、工場を積極的に誘致しました。これらが工場進出の原動力となって、電気機械などの大工場や、大工場から部品の製造を請け負う中小工場も次々と進出し、内陸型の北関東工業地域が形成されました。
現在の北関東工業地域では、電気機械や自動車などの工業が発達しており、関越自動車道や東北自動車道、北関東自動車道などの高速道路の近くに多くの工場が集まっています。自動車関連の工場で

地図帳p.129 ②



▶教科書に記述されている内容が、地図帳で図化されています。

4 毎時間の学習における「問い」

▶章(節)の「問い」を受けて、見開きで「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設置し、毎時間で学習の到達点を確認できるようにしています。

本資料 p.31-32

地理

本文ページ
教科書p.100-101など

歴史

本文ページ
教科書p.132-133など

公民

本文ページ
教科書p.141-142など

5 各所で働かせている「見方・考え方」

▶深い学びのカギとなる「見方・考え方」は、本文ページや章(節)末の「学習を振り返ろう」など、さまざまな箇所で見つけることができます。

本資料 p.33-34,35-40

地理

教科書
巻頭7, p.107など

歴史

教科書
p.12,147など

公民

教科書
p.18-20,156

6 小学校との関連を図る工夫

▶小学校での既習事項を生かせるよう、問いの文章を工夫したり、小学校の学習事項を提示したりしています。

本資料 p.11-12,25

地理

「小学校・歴史・
公民との関連」
教科書p.214など

歴史

「小学校・地理・
公民との関連」
教科書p.100など

公民

「小学校・地理・
歴史との関連」
教科書p.55など

7 防災意識を育む工夫

▶地理では災害の要因となる現象、歴史では災害の経験、公民では災害に対する行動を扱い、防災意識を育めるようにしています。

本資料 p.43-44

地理

「日本のさまざまな
自然災害」
教科書p.148-149など

歴史

「未来に向けて」
教科書p.87,227など

公民

「防災備蓄倉庫の新
設を考えてみよう」
教科書p.17など

8 我が国の領土への理解を深める工夫

▶地理では日本の領域の範囲、歴史では領土画定の経緯、公民では国としての対応を扱い、我が国の領土について詳しく主張を理解できるようにしています。

本資料 p.56

地理

「日本の領域と
その特色」
教科書p.18-19など

歴史

「日本の領土画定と
近隣諸国」
教科書p.266-267など

公民

「領土を巡る
取り組み」
教科書p.175-176など

9 SDGsへの意識を育む工夫

▶地理では地域の事例、歴史では過去の経験、公民では自らが考える課題として、SDGsについての理解が深まるようにしています。

本資料 p.41-44

地理

「地域の在り方を
考える」
教科書p.234など

歴史

「多面的・多角的に構
想する未来に向けて」
教科書p.286-287など

公民

「国際社会のより
よい発展」
教科書p.195-196など

10 地図の活用を促す工夫

▶小中高を通じて空間的な認識を高めるため、特に地図は豊富に掲載しています。

本資料 p.11-12,18,22,26,36

地理

「近畿地方」
教科書p.203など

歴史

「欧米諸国の
世界進出」
教科書p.156-157など

公民

「沖縄からの距離」
教科書p.185など

共通の特色

② 二次元コード コンテンツ

[illegible]

下のアドレスを入れてコンテンツメニューを見ることができます。

https://ict.teikokushoin.co.jp/d-text_03jh/chiri/index.html

https://ict.teikokushoin.co.jp/d-text_03jh/chiri/index.html



中学生の地理

1

Web 版
「i 地球儀」



2

「技能をみがく
・世界の姿」
アニメーション



3

学習を
振り返ろう
「知識」



4

NHK
for School



利用規約



2

3

！ポイント



4

NHK for School

[ホーム](#)
[はなぐみ](#)
[クリップ](#)
[先生](#)
[プレイリスト](#)

[番組一覧](#)
[よくある質問](#)
[お問い合わせ](#)
[日本語](#)

00:00 / 00:50

再生開始 00 : 00 ▶▶ 再生完了 00 : 50 ▶▶▶▶ 再生中

近隣のくらしを支える琵琶湖

琵琶湖の水は日本全国としての活動の多くの人のくらしを支えています。

琵琶湖のくらしを支える琵琶湖の水

共通の特色

類	内容	教科書のページ	コンテンツ数
①	Web版「i 地球儀」 ★	巻頭3	1
②	「技能をみがく・世界の姿」アニメーション ★	p3, 8, 9, 10, 11, 12, 17, 18, 22, 24, 27など	19
③	学習を振り返ろう「知識」 ★	p13, 25, 44, 64, 168, 184など	17
④	NHK for Shool (動画) ★	p50, 68, 84, 96, 110, 122, 142, 174, 190, 206, 222, 238, 256, 272など	116

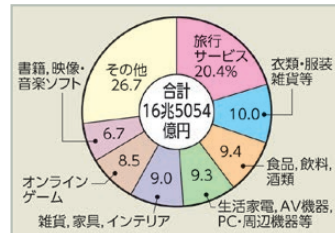
社会科3分野共通の特色

③ 特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮

1 カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

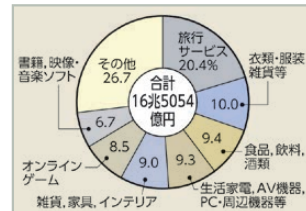
すべての生徒にとってグラフや資料が読み取りやすいよう、色覚特性をもつ人が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置することを避けたり、境界線を黒ではっきりと書いたりしています。

カラーユニバーサルデザインに配慮した図



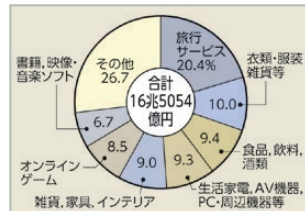
p.163⑧

D型色覚*の人の見え方



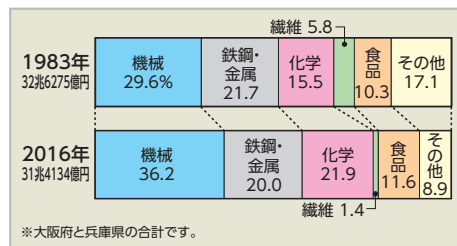
※色覚特性のD型とP型は、特性の中でも代表的なものです。上の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

P型色覚の人の見え方



2 特別支援教育等に配慮した表現

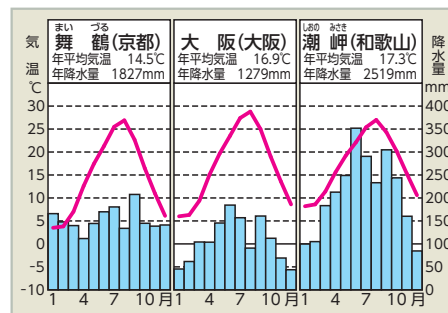
帯グラフ



p.210②

どこまでが同一の資料であるのかわかりやすいよう、図の周囲をグレーで囲んでいます。上の図の場合、二つの帯グラフが一つの資料を構成していることがわかります。また、引き出し線の起点を明確にするため、黒点で表現しています。

折れ線グラフ



p.207⑧

グラフが読み取りやすいよう、折れ線の太さを太くし、背景を白色にしています。

3 読みやすく誤読を防ぐ文字

誤読を防ぎ、すべての生徒にとって読みやすくなるよう、見開きタイトル、本文、図版タイトルなどにはユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。

非UDフォント

行われています。

UDフォント

行われています。

- 文字の細い部分を太くして、見えやすくする。
- 紛らわしい画線をやめ、シンプルなデザインにする。
- 濁点部分のすきまを十分確保して視認性を高める。
特に濁点のあるふりがなが読みやすくなっています。

非UDフォント

1946 年 11 月 3 日

UDフォント

1946年11月3日

- 文字と線が判別しやすい。
特に数字の「9」と「6」の区別や、数字の「3」とアルファベットの「S」などの区別がしやすくなっています。

4 学習単位がわかる工夫

現在学習しているのがどの章なのか一目でわかるよう、学習単元の章ごとに色を統一しています。

3章



を見学

5 学習が進めやすい工夫

- ▶レイアウトの違いによる生徒の混乱を防ぐため、導入資料や学習課題、振り返りの設問を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一しています。
- ▶「見通し・振り返り学習活動」がしやすいよう、「導入資料、学習課題(見通し)→本文→確認しよう、説明しよう(振り返り)」で見開きの展開を統一しています。

詳しくは本資料 p.31-32

すべての生徒にとって見やすくわかりやすい表現にしています。

軽さと丈夫さを求めた新用紙

- ▶新しく教科書専用の用紙を開発し、1ページあたりの紙の重さが現行版よりも約5%軽くなっています。増ページによる重さの負担を最小限に抑えています。
- ▶長期間の使用にも耐えられる堅牢な製本仕様になっています。



サポート

特別支援教育のための教科書と地図帳

『拡大教科書』(無償給与対象)

- ▶中学校用教科書の拡大教科書を発行しています。文字や資料を大きく目立たせ、レイアウトを見やすく改善しています。

■ ページ数の比較 (平成28年度版中学校用地理教科書の場合)

通常教科書	拡大教科書(7冊分)
全290ページ	全2187ページ

■ 同サイズでの紙面の比較 (例)



『拡大教科書』
のご案内

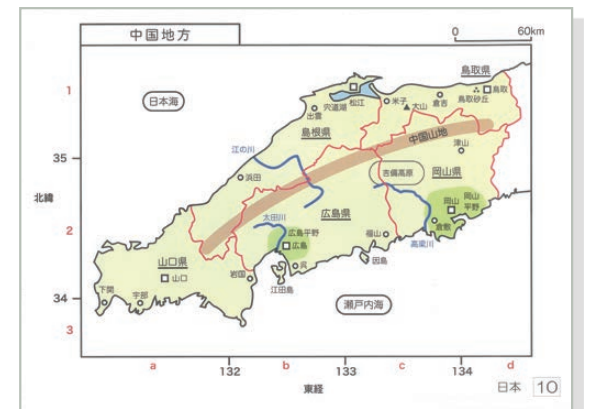


『みんなの地図帳』

～見やすい・使いやすい～ (有料)

- ▶記載内容を大幅に精選し、文字の置き方や大きさ、色づかいなど、見やすくなるよう工夫されています。

日本視覚障害社会科教育研究会編集、帝国書院発行



『みんなの地図帳』
～見やすい・使いやすい～
のご案内



デジタル

『デジタル教科書』(有料)

- ▶デジタル教科書においても、特別支援教育に配慮した機能を搭載しています。

デジタル教科書の詳しい説明はp.51-52

教科書指導のサポート

① デジタル教科書・教材

※ラインナップやコンテンツ等、一部内容が
変わる場合があります。最新情報は、
右の二次元コードよりご確認ください。
【中学校 社会科Webへ】



動作が速く、多彩な機能・コンテンツを収録した
新ビューア「超教科書」を採用しています。

スムーズに動く
新ビューア！



帝国書院のデジタル教科書・教材ラインナップ【有料】

①指導者用 デジタル教科書(教材)

- ▶ デジタル教科書とデジタル教材
(コンテンツ)の一体型。
- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの
基本機能は標準装備。
- ▶ 右ページの特別支援教育対応機能、
コンテンツともに収録。

+α
5つの授業支援ツールを用意

②学習者用 デジタル教科書

- ▶ 紙の教科書と同一の内容を収録。
- ▶ 拡大・縮小や書き消し、
保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 右ページの特別支援教育対応機
能を収録。

※②と③を購入することで、学習者用もデジタル教科書とデジタル教材(コンテンツ)の
一体型として活用できます。

③学習者用 デジタル教材

- ▶ 拡大・縮小や書き消し、
保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 教科書に準拠したコンテンツ集。

指導者用デジタル教科書(教材)に用意する

帝国書院
オリジナル

5つの授業支援ツール

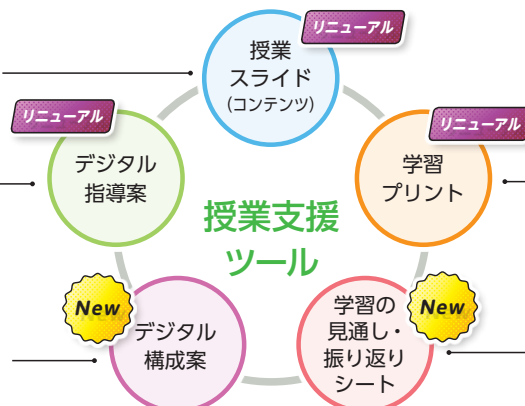
授業支援ツールの
紹介動画はこちら
【中学校 社会科Webへ】



1時間の授業展開を10枚前後の
スライドで構成し、コンテンツを有効
活用した授業が実現できます。

提示資料をビジュアル化し、
指導のポイントや問いを
例示しています。

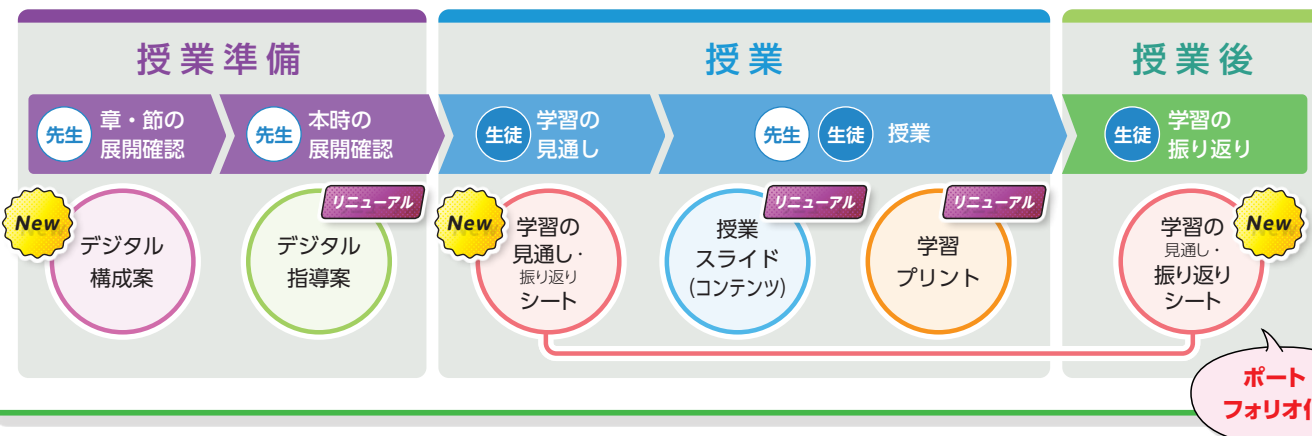
章・節の評価規準例や本時の目標・
指導のポイントがひと目でわかります。



授業スライドに対応しています。
思考力・判断力・表現力を磨く
問いを重視して作成しています。

章・節の見通し・振り返りだけで
なく、本時の予想や振り返りも
自分の言葉で表現できます。

〈授業支援ツールを活用した授業展開イメージ〉



ポート
フォリオ化

Webサイト上で体験できます！

Web体験版はこちら
【中学校 社会科Webへ】



※地図帳や歴史的分野、公民的分野の各デジタル教科書と
併せて体験ができます。

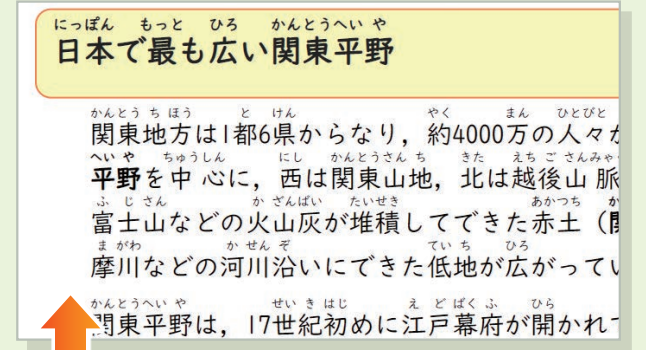
特別支援教育 対応機能

- ▶ リフロー表示*や総ルビ、白黒反転、読み上げの機能を用意しています。
以下に、リフロー表示におけるさまざまな機能を示しています。
- ※書体や文字サイズ、行間、余白などを自由に変更して表示する方式

通常のデジタル教科書の紙面



総ルビ



書体、文字サイズ、行間、余白の変更

日本で最も広い関東平野

関東地方は1都6県からなり、約
4000万人の人々が暮ら
す、最も人口の多い地方です。

※書体が明朝体、文字サイズ180%、行間1.2倍、余白1.5倍の場合

白黒反転

日本で最も広い関東平野

関東地方は1都6県からなり、約4000万人の人々が暮ら
す、最も人口の多い地方です。



読み上げ機能も付いています。
リフロー経由でなく、通常のデジタル教科書の
紙面に対しても総ルビ、白黒反転を用意しています。

おもな コンテンツ

- 雨温図コンテンツ
- 巻末統計
- 写真館(帝国書院ホーム
ページへのリンク)
- 一枚で見る日本列島
- i 地球儀
- 地理院地図への
Webリンク など

実際の操作は、
体験版で！

+α
アルファ 「デジタル教材以外も！」

掛地図や地球儀などの
サポート教材はこちら
【中学校 社会科Webへ】



教科書指導のサポート

② 教師用指導書・指導者専用サイト・定期刊行冊子など

充実したさまざまなサポートを用意しています。

教師用指導書【有料】(令和3年3月発行予定)

教科書に準拠した指導書で授業をサポートします。

1 南アメリカ州の自然環境

南アメリカ州は、赤道を横断する大陸で、気候は多様です。アマゾン盆地は、熱帯雨林が広がる巨大な盆地で、生物多様性が豊かです。アンデス山脈は、南アメリカ大陸の西部に伸び、標高が高く、気候が寒冷です。アマゾン川は、南アメリカ大陸最大の川で、流域が広大です。

指導書の内容

- 1 指導用教科書(朱書き)編
- 2 指導・評価計画編
- 3 学習プリント
- 4 Webサポート

※一部内容が変わる場合があります。

指導用教科書(朱書き)編のイメージ(画像は平成28年度版)

指導・評価計画編のイメージ(画像は平成28年度版)

教師用指導書のご案内(令和2年5月頃公開予定)



指導者専用サイト(学校の先生方限定)【無料】

無料でご利用いただける登録制の「指導者専用サイト」を開設しています。ダウンロードして活用できるワークシートなど、さまざまなコンテンツを多数収録しています。情報は随時更新していきます。



指導者専用サイトの案内



おもな収録コンテンツ

地理学習 トラの巻
※指導のポイント提示

「中学校 社会科のしおり」
授業研究コーナー対応ワークシート

プレミアム写真館(世界・日本)

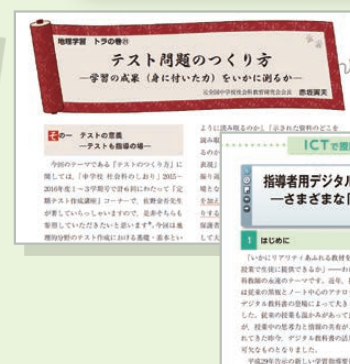
白地図 など

ポイント

小学校や中学校などの学校種の枠を超えて、社会科に関するあらゆる情報が入っています。

定期刊行冊子(「中学校 社会科のしおり」)【無料】

中学校の先生方を対象にした、定期刊行冊子『中学校 社会科のしおり』を発行しています。地図帳活用のほか、社会科の学習における授業実践例や、学習指導要領などに関する社会科教育の情報を掲載しています。



定期刊行冊子のご案内



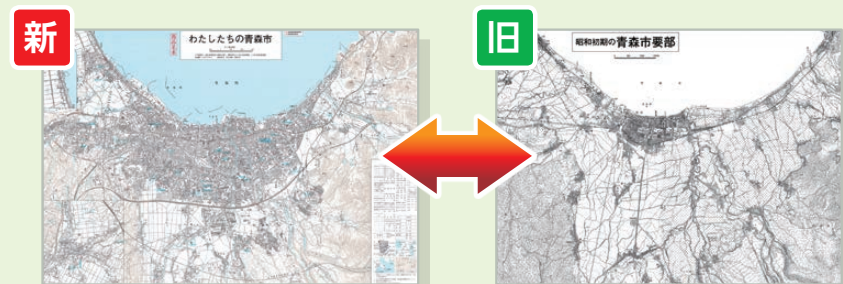
ポイント

- 1 「指導用教科書(朱書き)編」は図版・本文解説・板書例など、授業で使えるネタが満載です。
- 2 「指導・評価計画編」は年間指導計画案や単元構成案、授業展開案などに評価基準を掲載しています。
- 3 「学習プリント」は毎時間ごとのワークシートで、授業をサポートします。
- 4 「Webサポート※」は図版データやテスト例などを収録する予定です。最新情報を随時アップできるように、従来のCD-ROMからWeb上でのサービスに切り替える予定です。

※Webサポートへの認証IDは、ご購入いただいた教師用指導書内にて提示する予定です。

地域版地図【有料】

教育委員会などからの委託を受けて作成する、オーダーメイドの地図です。新旧比較の地図や、林間学校の訪問先を入れた地図などに、カスタマイズできます。



例：青森市での新旧地形図の比較

地域版地図のご案内



サポート

『社会科 中学生の地理』の特色一覧

① 教育基本法との対応

下表のデータはこちら
[Excelデータ]

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	●学習のはじめに、大きな写真やイラスト地図を設けることで、生徒の興味・関心を引きつけ、「主体的な学び」を促せるようにした。(p.48-49,66-67,82-83,94-95,108-109,120-121,171-173,187-189,203-205,219-221,235-237,253-255,269-271) ●単元のはじめの「章の問い」「節の問い」、各見開きの「学習課題」と「確認しよう」「説明しよう」、章や節の終わりの「振り返ろう」というように問いを構造化することで、単元のまとまりのなかで「深い学び」が実現できるように構成した。(全編) ●本文は、具体的に例示したり、社会的な事象の背景や因果関係までわかるようにしたりするなど丁寧でわかりやすくし、幅広い知識と教養を無理なく身に付けられるようにした。(全編) ●「章(節)の学習を振り返ろう」の下段、または右ページでは、「地理的な見方・考え方」を働かせた言語活動を行うことで、学んだ知識に基づいて「深い学び」が実現できるようにした。(p.13,25,44,65,81,93,107,119,129,169,185,201,217,233,251,267,283) ●世界の諸地域の学習では、州ごとに【導入(写真)→自然環境→歴史・文化→産業および地球的課題→学習の振り返ろう】という構成にすることで、知識や教養をバランス良く身に付けられるとともに、異文化理解が深まるようにした。(p.48-129) ●日本の諸地域の学習では、地方ごとに【導入(イラスト地図・写真)→自然環境→注目する視点→生活・産業など→学習の振り返ろう】という構成にすることで、知識や教養をバランス良く身に付けられるとともに、正しい国土理解が十分に行えるようにした。(p.171-283)	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色4 p.35-40
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	●「技能をみがく」コーナーでは、地図帳の使い方やグラフの作り方などの技能を身に付けることで、自主・自立の精神を涵養できるようにした。(p.5,9,12,24,27,29,45,134,152など計23か所) ●インクルーシブ教育に配慮し、誰でも読み取りやすい書体(ユニバーサルデザインフォント)や色調を導入することで、さまざまな特性をもつ生徒の価値を尊重して、その能力を伸ばせるようにした。(全編) ●二次元コードを随所に設置することで、授業以外においても生徒が自主的に活用できるようにした。(巻頭3など計53か所) ●教科書の用紙は、丈夫でありながら従来のものより単位面積あたり5%軽量化したものを新たに開発することで、持ち運びの際に生徒の負担にならないようにした。(全編) ●生活をより豊かにするために工夫し努力する人の姿を、「声」コーナーや写真などで紹介することで、勤労を重んじる態度を養えるようにした。(p.72,78,88,100,116,127,138,180,215,224,249,262,274など) ●「身近な地域の調査」および「地域の在り方」では、調査の手法、調査結果の分析に加え、プレゼンテーションのやり方にも触れることで、情報活用能力を高められるようにした。(p.130-141,285-295)	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.39-40 および p.47-49

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	●コラム「未来に向けて」では、人々が連携・協働して社会的な課題に取り組む姿を紹介することで、生徒自身も社会の一員として、主体的に社会の形成に参画する意識を高められるようにした。(p.69,89,91,113,123,181,193,207,225,247など計25か所) ●特設ページ「地域の在り方を考える」では、実社会の人々が連携・協働して、地域のよりよい発展をめざして取り組む姿を紹介することで、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(p.186,202,218,234,252,268,284) ●「世界の諸地域」および「日本の諸地域」各節末の「節の学習を振り返ろう」では、地域に見られる課題の解決に向けて考えを深める活動を取り入れることで、学んだ地域の課題と自分たちとの関わりを意識できるようにした。(p.64-65,80-81,92-93,106-107,118-119,128-129,184-185,200-201,216-217,232-233,250-251,266-267,282-283) ●生徒自身が住む地域における、社会的な課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組む活動を設けることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるよう配慮した。(p.285-295) ●教科書中のキャラクターは、全体として男女の比率がほぼ同じになるように留意した。(全編)	おもに 特色5 p.44
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	●国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」を解説することで、自然を大切にし、環境保全に寄与する意識を高められるようにした。(巻頭1-2) ●「技能をみがく」コーナーでは、地形図やハザードマップの読み取り方など防災に関わる技能を習得できるよう作業課題を手厚く設けることで、生命を守るための情報活用能力を育成できるようにした。(p.134-137,152-153) ●コラム「未来に向けて 環境」などで、実社会の人々が連携・協働して社会的な課題の解決に取り組む姿を紹介することで、環境を保全し生命を尊び持続可能な社会をめざす態度を養えるようにした。(p.69,91,123,181,213,225,279) ●特設ページ「地域の在り方を考える」では、地域のよりよい発展をめざして取り組む姿を紹介することで、環境を保全し生命を尊び持続可能な社会をめざす態度を養えるように配慮した。(p.186,202,218,234,252,268,284)	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.39-40 特色5 p.41-44
第5号 伝統と文化を尊重し、それらははぐくみきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	●第1部第2章「3日本の領域とその特色」では、日本の領域の範囲とその特色について丁寧に解説することで、日本の立場が国際法に則っていることを理解し、国際社会を尊重する姿勢を養えるようにした。(p.18-21) ●第2部第1章「8人々の生活と宗教の関わり」では、偏見を与えない記述となるよう配慮することで、他国の人々を尊重する態度を養えるようにした。(p.42-43) ●第3部第2章「日本の地域的特色」では、日本全体としての地域的特色を的確に表現できる資料を掲載することで、正しい国土理解と、自然の恵みへの感謝の念や国土への愛着を養えるようにした。(p.142-169) ●「声」コーナーや写真などで、生活をより豊かにするため、また文化の継承と創造のために工夫し努力する人の姿を紹介することで、勤労を重んじる態度や、伝統や文化を尊重する態度を養えるようにした。(p.72,78,88,100,116,127,138,180,215,224,249,262,274など)	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 および p.45-46

『社会科 中学生の地理』の特色一覧

② 検討の観点から見た内容の特色

下表のデータはこちら
【Excelデータ】

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
教育基本法との対応	教育基本法との対応が十分にはかられているか。	●教育基本法第1条の目標および教育基本法第2条第1～5号に示された内容について、 社会科の目標や学習内容に沿った指導を効果的に行うことができる ように構成されている。	おもに p.55-56
学習指導要領との対応	学習指導要領の目標・内容の趣旨に沿ったものであるか。	●単元構成は、学習指導要領の目標・内容に沿って構成されている。「もくじ」[この教科書の学習のしかた]では、 単元構成と学習内容、各種コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しがつかみやすい ように工夫されている。(巻頭3-6) ●地域の特色が概観できるイラスト地図や写真資料、章・節ごとの単元を貫く問い、具体的な事例をもとに因果関係がわかる本文、単元の最後の「章(節)の学習を振り返ろう」のように、 単元が構造化され、見通し・振り返りに基づいた単元学習が確実に実践できる よう工夫されている。 ●臨場感あふれる写真を通して日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、主体的に各地の地域的特色を捉えられる本文やコラムがバランスよく盛り込まれている。 ●学習指導要領で重視されている「 地理的な見方・考え方 」を働かせながら、我が国の国土や世界の諸地域に関する地理的特色が捉えられるよう構成されている。また地理的分野の全体を通して鍛えていく「 地理的な見方・考え方 」を整理したページが設けられ、わかりやすく説明されている。(巻頭7) ●知識が確実に習得できるよう丁寧な本文とし、本文の理解を促す資料を適宜配置し、知識・技能の形成を促すコラムや思考力・判断力・表現力を育む作業が随所に盛り込まれ、 公民としての資質・能力の基礎を育成 できるように配慮されている。	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40 特色5 p.41-44
内容の配列・分量・程度	全体の分量は、年間標準時数から見て適切か。各単元の配当時数は適切か、系統性が考慮されているか。	●1見開き1単位時間(以下、時間)の授業が想定され、学習課題が明確に設定されている。 ●授業数は、第1部に10時間(第1章5時間、第2章5時間)、第2部に39時間(第1章9時間、第2章30時間)、第3部に54時間(第1章4時間、第2章13時間、第3章37時間)、第4部に5時間(第1章5時間)が配当され、標準授業時間数115時間のうち108時間を活用する配当で、適切である。予備時間は7時間設けられている。	おもに 特色3 p.29-34
	内容の程度・範囲および文章は、生徒の発達段階から見て適切か。	●本文は、 具体的に例示したり、地理的事象の背景や因果関係までわかる ようにしたりするなど、丁寧でわかりやすくなっている。また、平易な表現にするなど、中学生の発達段階が考慮されている。 ●本文、図版タイトル、キャプションの難しい漢字にはふりがなが付されている。また、固有名詞や地理用語には適宜ふりがなが付されており、地名や用語、熟語が正しく読めるように配慮されている。 ●文体は「です、ます」調の語り口で、生徒に親しみやすくなっている。 ●中学校学習指導要領の学習範囲を逸脱せず、基本的な用語や概念の理解を優先的に学べるようになっている。	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	学習を効果的かつ効率的に進めるための工夫がなされているか。	●各見開きは、本文、資料、側注などが 統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理されている 。学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。 ●本文と資料の関連する箇所には、 図・写真や他ページへの適切な参照指示 が記載され、学習効果を高めるとともに、効率よく資料の活用ができるように工夫されている。 ●各見開きでは、 学習している分野がわかるように、章ごとに色が統一 されている。さらに、紙面右端に インデックス が設けられ、 全体における位置づけを確認しながら学習 できるように工夫されている。 ●用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、ページ間を移動する手間が省け、生徒が集中力を切らさないで授業を進められる。	おもに 特色3 p.29-34
	課題解決的な学習を行うための構成・工夫がなされているか。	●単元を貫く「章(節)の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「章(節)の学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで、課題解決的な学習ができる 構成になっている。 ●「章(節)の学習を振り返ろう」では、「 章(節)の問い 」に対して「 地理的な見方・考え方 」を働かせて考えるステップなど、課題解決的な学習ができる工夫がなされている。(p.106-107など)	おもに 特色3 p.29-34

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための構成・工夫がなされているか。	●地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められるように配慮されている。(p.130-141) ●単元を貫く「章(節)の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「章(節)の学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、単元のまとまりの中で「深い学び」が実現できる構成になっている。 ●世界の諸地域および日本の諸地域の単元冒頭に、学習の進め方や各地域で注目するテーマ・視点が「 序節 」としてわかりやすく示されており、 学習の見通しが立てやすくなっている 。(p.47,170) ●本文のページの導入資料では、写真や資料に対して中学生に親しみやすいキャラクターが吹き出しで疑問を投げかけており、導入資料を用いて対話的な学習ができるよう工夫されている。 ●本文のページは左ページ上段に導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを配置し、下部に本文を掲載する学習しやすいレイアウトで統一されている。また、相互にリンクが張られ、資料が活用しやすく工夫されている。 ●「章(節)の学習を振り返ろう」では、 学習した知識をもとに、「地理的な見方・考え方」を働かせながら主体的・対話的に「章(節)の問い」を振り返る ことで、「深い学び」につなげられるよう配慮されている。(p.107,217など)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40 特色4 p.35-40
	基礎的・基本的な「知識および技能」を確実に習得するための工夫がなされているか。	●地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順、必要な技能が系統だてて具体的に示されており、技能を習得しやすいうように配慮されている。(p.130-141) ●見開き1時間の紙面が、 興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧にわかりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化 され、基礎的・基本的な知識および技能が確実に理解できるようになっている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」、第3部第3章「日本の諸地域」では、各地の地域的特色を確実に理解できるように、各節の構成が「導入写真」→「自然環境」→地域で特徴的な「歴史・文化」「産業など」→「節の学習を振り返ろう」という展開に構造化されている。(例：p.108-119 南アメリカ州,p.203-217 近畿地方) ●本文は、全編にわたり地理的事象のしくみや概念がわかるように因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながらわかりやすく記述されている。また、文章で書かれた内容を補足し理解を促進する、わかりやすい図解が多数掲載されている。 ●「技能をみがく」コーナーが23か所設けられ、「 地理的な見方・考え方 」を働かせる上で必要な 基礎的な技能が習得 できるよう配慮されている。(例：p.5,9,11,17,24,29,46など)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40 特色5 p.41-44
	深い学びを実現させるための「思考力・判断力・表現力等」を育成するような配慮がなされているか。	●本文ページの見開きの右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には本時の学習での習得事項を確認する作業課題が、「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。これにより 言語活動を毎時間くり返し行い、思考力・判断力・表現力を育成 できるよう配慮されている。 ●各章末には「章(節)の学習を振り返ろう」が配置され、 章の学習で得た知識を生かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題 が設けられている。 ●世界・日本の諸地域単元の「節の学習を振り返ろう」と「地域の在り方」が関連しているため、世界や日本の諸課題を自分たちの身のまわりの課題と関係付けて構想できる工夫がなされている。	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	「思考力・判断力・表現力等」の育成につながる社会的な見方や考え方を働かせるための配慮がなされているか。	●写真や図版、本文が密接に関連することで、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「 地理的な見方・考え方 」を自然に働かせられるように配慮されている。 ●「章(節)の学習を振り返ろう」では、地図や写真、表などのさまざまなツールを用いて、「 地理的な見方・考え方 」を働かせられるように工夫されている。(p.13,25,44,65,81,93,107,119,129,169,185,201,217,233,251,267,283)	おもに 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	生徒の興味・関心を喚起させ、「主体的に学習に取り組む態度」を育成できるような配慮がなされているか。	●幅広の判型(AB判)で、 写真や地図、グラフなどが大きく見やすく提示 され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」では各節の冒頭に「導入写真」ページが設けられ、地域への興味・関心を高めてから学習に入れるようになっている。(p.48-49,66-67,82-83,94-95,108-109,120-121) ●第3部第3章「日本の諸地域」では各節の冒頭に「イラスト地図」および「導入写真」ページが設けられ、地域への興味・関心を高めてから学習に入れるようになっている。(p.171-173,187-189,203-205,219-221,235-237,253-255,269-271) ●生徒にとって親しみやすい中学生のキャラクターが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示することで、主体的に学習へ取り組めるように配慮されている。 ●各見開きの左上に、1時間ごとの導入となる資料が設けられている。ワイドな写真からイメージを喚起したり、驚きや疑問をもったりして、 学習への意欲が引き出せる ようになっている。 ●地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められるように配慮されている。(p.130-141)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34
	内容の扱い／学習活動		

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	小学校・高等学校との接続や関連に配慮がなされているか。	●「日本の諸地域」冒頭のイラスト地図では、小学校の既習事項を復習させる問いが設定されている。(p.171,187,203,219,235,253,269) ●世界・日本の諸地域学習において、自然環境、歴史・文化、産業などの地域的特色をきちんとおさえる配慮がなされている。 ●第1部第1章「世界の姿」や第2章「日本の姿」に設けられた作業「やってみよう」では、 小学校で学習する「日本の国土」や地図帳の活用に関する内容を、より深化させる学習ができるようになっている。 (p.9,11,18,24など) ●本文ページ下段には「小学校・歴史・公民との関連」コーナーが設けられ、 小学校で学習した内容を確認 できるよう、関連用語が提示されている。(p.164など)	おもに 特色2 p.13-28
	他分野との接続や関連に配慮がなされているか。	●本文ページ下段には「小学校・歴史・公民との関連」コーナーが設けられ、 歴史的分野・公民的分野との接続ができるよう 、関連用語が提示されている。(p.124など) ●世界・日本の諸地域学習において、各地域の文化や産業についての歴史的経緯が積極的に記載され、歴史的分野との接続が考慮されている。 ●「防災」「環境」「共生」といった、現在および将来の社会が直面する課題を取り上げたコラム「未来に向けて」が25テーマ設置され、公民的分野への接続が考慮されている。	おもに 特色2 p.13-28 特色5 p.43-44
	我が国の伝統・文化、宗教に対する理解が深められるような配慮がなされているか。	●第3部第3章第6節「東北地方」では、地域を見る視点を「生活・文化」とし、伝統文化を生かした産業や伝統文化の継承について考察できるよう配慮されている。(p.253-267) ●第3部第3章第7節「北海道地方」では、「地域の在り方を考える」においてアイヌの文化について触れ、多文化が尊重される社会を意識させるよう配慮されている。(p.284)	おもに 特色2 p.13-28
	我が国の領土・領域を正しく理解できるような配慮がなされているか。	●第1部第2章「3 日本の領域とその特色」のなかで、日本の領域について図や写真を用いて丁寧に説明し、正しい理解を深められるよう配慮されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島が 日本固有の領土であることが明記 され、領土に関する現状と課題を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう配慮されている。(p.18-21)	おもに p.45-46
	補充的な学習や発展的な学習に対して、そのような工夫・配慮がなされているか。	●世界・日本の諸地域学習の「節の学習を振り返ろう」では、ステップ3で持続可能な社会に向けて構想を行う発展的な課題が設けられている。(p.107,217など) ●地域調査と地域のあり方の単元は、協働学習形態の提示が行われている。 ●コラム「未来に向けて」が25か所設置され、持続可能な社会をつくるための人々の取り組みを示すことで、社会に対し 生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考える ことができるようになっている。(p.69,91,123など)	おもに 特色3 p.29-34
	生徒が家庭でも主体的に自学自習できるような配慮がなされているか。	●教科書の冒頭には「この教科書の学習のしかた」が掲載され、 自学自習がしやすいよう に配慮されている。(巻頭5-6) ●緯度・経度や時差など、図版だけでは理解しづらい概念を説明する際は、二次元コードによるアニメーションを掲載して、理解を促すよう配慮されている。 ●二次元コードで学習内容に関連する動画や「章(節)」の学習を振り返ろう」の解答などが閲覧でき、生徒が自学自習しやすいように工夫されている。(巻頭3など計53か所)	おもに p.47-48
今日的な課題への対応	環境教育に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第2章「世界の諸地域」、第3部第3章「日本の諸地域」では、学習が「自然環境」から始まっており、各地域の自然環境に対する理解が深められるように配慮されている。(南アメリカ州 p.110,近畿地方 p.206など) ●コラム「未来に向けて 環境」が7テーマ設置され、環境保全に取り組んでいる人々の姿が紹介されている。(p.69,91,123,181,213,225,279)	おもに 特色5 p.41-44
	防災に関して、どのような配慮がなされているか。	●第3部第2章「日本の地域的特色」の中で日本の自然災害について扱っている。日本で起こりうる自然災害と各地で行われている防災への取り組みについて学び、同時に 自分自身が災害にどのように備えるか、災害発生時にどのように行動すべきか、主体的に考えることができるよう 配慮されている。(p.148-153) ●「技能をみがく」の「ハザードマップの読み取り方」「防災情報の入手のしかた」では、 ハザードマップの使い方や災害時の避難方法等を実践的に学習 でき、防災への意識を高めることができるよう配慮されている。(p.152-153) ●日本の諸地域の自然環境を扱う見開きでは、各地方の自然環境に関連した災害とそれに対する対策の実例を示したコラム「未来に向けて」が設置されており、 地方における自然環境の特色と防災の関連がつかめるよう 配慮されている。(p.175,191,207,223,239,257,273) ●東北地方の特設ページ「地域の在り方を考える」では、東日本大震災の復興に向けた取り組みを事例として扱っている。防災の重要性を強調するとともに、地域ぐるみでの取り組みの大切さを知ることができる。(p.268)	おもに 特色5 p.41-44
	人権・平和教育の推進のために、どのような配慮がなされているか。	●世界・日本の諸地域学習を通して、各地にはさまざまな立場や考え方があることを認識し、多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度を育むことができるよう配慮されている。 ●コラム「未来に向けて 共生」が9か所設置され、多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿が紹介されている。(p.57,87,89,99,113,125,193,209,247)	おもに 特色5 p.41-44

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
今日的な課題への対応	グローバル化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第1章「人々の生活と環境」のなかで、 世界とのつながりのなかで変化していく衣食住などの事例を写真や本文で提示 することで、グローバル化が地域に及ぼす影響について取り上げている。(p.31,33,35,37,39,40-41) ●第3部第3章「日本の諸地域」では、 グローバル化の影響が地方産業に及ぼす影響が提示 されている。(p.179,181,196-197,210,226,246-247,262,280)	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.35-40
	少子高齢化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第3部第2章「6日本の人口」では、日本における少子高齢化の現状について記述されている。(p.155) ●第3部第3章「日本の諸地域」では、少子高齢化が地域に及ぼす影響について記述されている。(p.198,214,243,249,265)	おもに 特色2 p.13-28
	情報化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第3部第2章「10日本の商業・サービス業」では、情報化が商業に与える影響が記述され、第3部第2章第5節「4人口の集中と第3次産業の発達」では、情報が集まる地域の産業について記述されている。(p.163,244-245)	
	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関して、どのような配慮がなされているか。	●教科書の冒頭で世界と日本における「持続可能な開発目標」(SDGs)の事例が写真で紹介され、 SDGsと地理的事象の関連について意識 できるように工夫されている。(巻頭1-2) ●コラム「未来に向けて」や特設ページ「地域の在り方を考える」にはSDGsマークが付され、持続可能な社会に向けて取り組んでいる実社会の事例を掲載し、SDGsへの関心が高まるよう配慮されている。(p.69,91,123,181,218,225,279)	おもに 特色5 p.41-44
表記・表現	統計、挿絵、写真、図表等は鮮明、正確かつ適切であり、相互の関連がはかれるなど学習効果を高めるための工夫がなされているか。	●本文の記述を補足する写真や図版などが大判で豊富に掲載され、学習を深められるようになっている。 ●学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号などのリンク機能が設けられ、資料の活用を促している。 ●資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」が随所に設置され、資料の活用を促している。 ●地理的分野の学習に必要な用語を解説した「解説」のコーナーが側注欄に52項目設けられている。文章だけでは理解しづらい用語には、図解や写真が添えられて視覚的に理解が深まるように工夫されている。(p.174「カルデラ」など)	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.35-40
	特別支援教育やインクルーシブ教育に対して適切な配慮がなされているか。	●本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができる ユニバーサルデザインフォント(UDフォント) が使用され、 誤読を防ぐように 配慮されている。 ●見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料には、 色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様 が使用され、 カラーユニバーサルデザイン の配慮がなされている。 ●色数の多いグラフや地図には、模様や線種、記号などが使用され、色以外での区別ができるように配慮されている。 ●図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版が読み取りやすくなっている。 ●各見開きのデザインは、生徒が学習しやすいように本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで整理されている。 ●紙面右端のインデックスには、章の学習内容が記載されていることで、 一目で学習している単元がわかるように 配慮されている。 ●反射を抑えた紙が用いられ、読み取りやすくなるように配慮されている。	おもに 特色3 p.31-32 および p.49-50
印刷・装丁等	紙質や印刷の鮮明さなど、生徒の利便性への配慮がなされているか。	●写真の印刷は鮮明で見やすくなっている。 ●地図などの図版は、記号や注記文字が明瞭で読み取りやすいように配慮されている。 ●紙は、反射を抑えつつ、鮮明に発色して裏写りせず、かつ文字も書き込める軽量なものが使用されている。 ●生徒が家に持ち帰ることを想定し、 軽い紙が用いられている(現行教科書比単位面積あたり約5%の軽量化) 。	おもに p.49-50
	造本は3年間の使用に耐えられるような配慮がなされているか。	●表紙の材料は引っぱり、折りなどに強い用紙が使用され、さらに、表面の摩耗・汚れを防ぐためにポリプロピレンシートが貼られており、長期間の使用に耐えられる。 ●製本は、針金綴じよりも 強度があり、かつ重量の軽いPUR製本 が用いられている。これにより本が大きく開くため、掲載情報量が増えるとともに、机の上に開いたまま置くことができる。	おもに p.49-50
	用紙・インキ等は、環境への配慮がなされているか。	●古紙および環境に優しいフレッシュバルブが用いられている。インキには国産米の米ぬかから作られるライスインキが使用され、 環境保全と地産地消への配慮がなされている 。 ●針金を使わないPUR製本により、資源を節約すると同時に、リサイクルしやすくなっている。	おもに p.49-50
サポート体制	デジタル教科書・教材や教師用指導書などのサポート体制はどのようなになっているか。	●学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教材、指導者用デジタル教科書(教材)、教師用指導書、拡大教科書が令和3年4月までに発刊される予定である。	おもに p.51-54



『社会科 中学生の地理』の全体構成(もくじ)

本資料での掲載ページ

巻頭	地域のよりよい発展を目指して	巻頭1-2	→ 41
	もくじ	巻頭3-4	47
	この教科書の学習のしかた	巻頭5-6	—
	地理的な見方・考え方について	巻頭7	→ 35
	地理的分野の学習の全体像を見通そう	1	—
第1部	世界と日本の地域構成		—
第1章	世界の姿	2-12	—
	★章の学習を振り返ろう	13	—
第2章	日本の姿	14-24	→ 36
	★章の学習を振り返ろう	25	—
第2部	世界のさまざまな地域		—
第1章	人々の生活と環境	26-43 45-46	→ 1, 36, 37, 39, 40
	★章の学習を振り返ろう	44	—
第2章	世界の諸地域		—
序説	学ぶにあたって	47	→ 27
第1節	アジア州		—
	○写真で眺めるアジア州	48-49	—
	(本文ページ)	50-63	→ 9
	★節の学習を振り返ろう	64-65	—
第2節	ヨーロッパ州		—
	○写真で眺めるヨーロッパ州	66-67	—
	(本文ページ)	68-79	—
	★節の学習を振り返ろう	80-81	—
第3節	アフリカ州		—
	○写真で眺めるアフリカ州	82-83	—
	(本文ページ)	84-91	—
	★節の学習を振り返ろう	92-93	—
第4節	北アメリカ州		—
	○写真で眺める北アメリカ州	94-95	—
	(本文ページ)	96-105	→ 9, 29-32
	★節の学習を振り返ろう	106-107	→ 30, 33-34
第5節	南アメリカ州		—
	○写真で眺める南アメリカ州	108-109	→ 5-6, 13, 38
	(本文ページ)	110-117	→ 14-17, 38
	★節の学習を振り返ろう	118-119	→ 18
第6節	オセアニア州		—
	○写真で眺めるオセアニア州	120-121	—
	(本文ページ)	122-127	→ 44
	★節の学習を振り返ろう	128-129	—
第3部	日本のさまざまな地域		—
第1章	身近な地域の調査	130-141	→ 40
第2章	日本の地域的特色	142-167	→ 43, 49
	★章の学習を振り返ろう	168-169	—
第3章	日本の諸地域		—
序説	学ぶにあたって	170	→ 28

第1節	九州地方		—
	(イラスト地図)	171	→ 12
	○写真で眺める九州地方	172-173	—
	(本文ページ)	174-183	→ 10
	★節の学習を振り返ろう	184-185	—
	■地域の在り方を考える	186	42
第2節	中国・四国地方		—
	(イラスト地図)	187	—
	○写真で眺める中国・四国地方	188-189	—
	(本文ページ)	190-199	→ 44
	★節の学習を振り返ろう	200-201	—
	■地域の在り方を考える	202	—
第3節	近畿地方		—
	(イラスト地図)	203	→ 11, 19
	○写真で眺める近畿地方	204-205	→ 2, 7-8, 20
	(本文ページ)	206-215	→ 21-25, 38, 44, 49
	★節の学習を振り返ろう	216-217	26
	■地域の在り方を考える	218	—
第4節	中部地方		—
	(イラスト地図)	219	—
	○写真で眺める中部地方	220-221	—
	(本文ページ)	222-231	→ 10
	★節の学習を振り返ろう	232-233	—
	■地域の在り方を考える	234	→ 42
第5節	関東地方		—
	(イラスト地図)	235	—
	○写真で眺める関東地方	236-237	—
	(本文ページ)	238-249	→ 2, 44
	★節の学習を振り返ろう	250-251	—
	■地域の在り方を考える	252	—
第6節	東北地方		—
	(イラスト地図)	253	—
	○写真で眺める東北地方	254-255	—
	(本文ページ)	256-265	→ 10
	★節の学習を振り返ろう	266-267	—
	■地域の在り方を考える	268	42
第7節	北海道地方		—
	(イラスト地図)	269	—
	○写真で眺める北海道地方	270-271	—
	(本文ページ)	272-281	—
	★節の学習を振り返ろう	282-283	—
	■地域の在り方を考える	284	—
第4部	地域の在り方		—
序説	学ぶにあたって	285	—
第1章	地域の在り方	286-295	→ 42

著作者を代表して

日本と世界の諸地域を学ぶ意義とは

東京学芸大学 教授 加賀美 雅弘

中学校の地理的分野の学習では、私たちが暮らす地球上のさまざまな地域について学びます。学習にあたっては、世界全体を見わたす一方で、日本国内にも目を向けて、どこで何が起こり、それがどのような理由により発生するのかを理解することをめざします。「地理的な見方・考え方」を働かせることによって、それぞれの地域の特徴を捉えて、グローバル化に見られるような世の中の変化についての理解が深められるほか、身近な地域などで実際に行う調査を通して、ふだん慣れ親しんでいる風景から地域について考えることができるようになります。

世界にはさまざまな人々の暮らしがあり、多様な文化が見られ、それぞれの社会は互いに助け合い、関係し合っています。日本の諸地域を学ぶことによって日本の国土を理解し、世界のなかに暮らす私たち自身に

ついて考え、世界の人々との相互理解や異文化理解に関わる学習も深められます。また、迫りくる自然災害にどのような対策が必要なのか、よりよい社会をどのようにつくったらよいのかを考えることも地理的分野の課題です。本書では、そうした点にも力を入れて編集しています。

本書を通して地理的分野について学ぶことによって、まさにこれからの世の中を生きる上で欠かせない知識と視野を、中学生の皆さんにもってもらいたいと、私たちは願っております。

帝国書院の
教科書づくりへの想い
【動画 2分34秒】



本書の著作関係者

※所属・肩書きは令和2（2020）年3月時点のもの

監修者

加賀美 雅弘 東京学芸大学教授
米田 豊 兵庫教育大学教授
志村 喬 上越教育大学教授
吉田 剛 宮城教育大学教授

著作者

梅田 克樹 千葉大学准教授
漆間 浩一 鎌倉女子大学教授
大山 修一 京都大学准教授
大呂 興平 大分大学教授
小岩 直人 弘前大学教授
小島 泰雄 京都大学教授
近藤 章夫 法政大学教授
土屋 純 関西大学教授
堤 純 筑波大学教授
永田 忠道 広島大学准教授
仁平 尊明 北海道大学准教授
武者 忠彦 信州大学准教授
池下 誠 東京都練馬区立
大泉西中学校
主任教諭

池田 康二 東京都江戸川区立
篠崎第二中学校主任教諭
岸上 智弘 大阪府大阪市立
十三中学校教頭
立石 昌文 福岡県公立中学校元教諭
中野 英水 東京都板橋区立
赤塚第二中学校主幹教諭
渡邊 智紀 お茶の水女子大学附属中学校教諭

編集委員

赤坂 寅夫 東京都公立中学校元校長
梅津 正美 鳴門教育大学教授
江口 勇治 筑波大学名誉教授
鴛原 進 愛媛大学教授
佐野 金吾 東京都公立中学校元校長
土屋 武志 愛知教育大学教授
松岡 尚敏 宮城教育大学教授
吉村 功太郎 宮崎大学教授

編集協力者

井上 弘毅 神奈川県横浜市立
金沢中学校教諭

井寄 芳春 大阪府大阪市立
横堤中学校校長
岩岡 正紘 静岡県浜松市立
三ヶ日中学校教諭
上西 好悦 京都府久御山町立
久御山中学校教諭
王子 明紀 兵庫県三田市立
上野台中学校主幹教諭
田村 俊司 静岡県静岡市立
清水第二中学校教諭
時任 秀仁 神奈川県川崎市立
塚越中学校教諭
樋口 大祐 三重県四日市市立
富洲原中学校教諭
平山 裕人 コロボックル学びの家
百瀬 顕正 長野県中学校組合立
鉢盛中学校教頭

特別支援教育に関する監修・校閲者

柏倉 秀克 桜花学園大学教授
丹治 達義 筑波大学附属
視覚特別支援学校教諭